愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

愛國婦人

毎月五日二十日發行
一部金參錢　一ヶ月六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部[illegible]
東京麹町區（中ヶ淵公園）　愛國婦人會發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　手島益雄

社説

身體と衣服

獸類に毛皮あり、鳥に羽毛あり、持つて生れた着物にて、春夏秋冬着た儘の一枚ぎり、脫ぎ加への入らざる至極重寶のものなれども、人間の裸身には着物なくては居られず、寒熱溫冷に應じて、種々の着加減あり、面倒千萬なれども、其所にまた着物の好みといふもの出來、流行を生じ、伊達を競ひて、裸一貫の天然の美よりも、着物を見て呉れとなつて仕舞ひ、始めの主意は忘れて、着るべき着物に着られ、前世の因果の報ひならぬ帶といふものに捲き締められ、肩息をして喜んで居るさへあるに、近頃は洋風入り來りて、女は洋服に名にのみ聞きし鳩胸責めの苦みを求めて買ひ、靴に自然の足を入れ縮めて、得意滿面、一度は洋服が着て見たしとは、今の女の理想とぞ。さらば夏に手袋をはめ、冬に羽毛の襟卷をするなどは、言ふまでもなきことにて、かくて皮膚を弱め、身體を弱めて、着物のみ獨り全盛を競ふ不思議の世とはなりたり、人は稱して之を文明といふ、文明の弊もまた大なる哉。

此程西洋に裸體の功德を說けるものあり、曰く野蠻人の强健長壽なるは裸體のお蔭なり、白人の侵入して、之に衣服を給するに及んで、或る人種は身體の孱弱を來し、或は滅亡せるものもあり、西洋にても昔は衣服頗る簡單にして、往來に於ても、身體を一層多く露出し居たり、然るに近來は全身を覆ひ包みて、無用の保護をなすより、漸次身體弱くなり來れり、かくて進まば衣服は竟に人類を滅亡せしむるに至るべしと、言少しく過大に失するが如きも、一部の眞理は拒むべからず、現に我等も、五月中旬房州九十九里に遊び、子供が裸體にて砂上に戲れ居れるを見て驚きたり、漁夫が寒中も薄着にて、時に裸體となるは珍らしからず、しかも風の一ッも引かず極めて健康なり都會の者は之に反し、赤兒の時より厚着させ、喉には切れなど捲きて、暖めた上にも暖むるより、寒さは少しの油斷にも付け入りて、直ちに風を引き、熱を患はしむ、かくて人は氣候の爲めに追ひ廻はされて、年中着物の穿鑿に暮らすこと、なるなり、昔西洋の或哲學者寒中殆んど裸なるより、或人如何にして此寒さには堪へらるゝぞと問ひしに、彼れは、御身は顏を露出せるも寒さを感ぜざるにあらずや、我が全身は顏と思へと答へたりと面白い哉此言。皮膚も鍛ふれば鍛へらるゝものなり、日光と空氣は皮膚の作用を活潑ならしめ、よく寒暑の變化に適應せしむ、されば皮膚は全く裹み隱すべきものにあらず、適度に日光と空氣とに曝すべきものなり、手足は出すが當然なり、西洋の眞似をするに及はず、皮膚を覆ふが文明にて、出すは野蠻とは、全體何を標準としての言なるや、良くも惡しくも洋人の仕て居ることが文明といふにや、天下の愚論とはこの事なり、例せば洋人は少時より靴を穿つより、足の畸形を來して、出すにも出されず、乃ち止むを得ず足を隠すなるに、人の自然の完全なる足を出し居るを見て、野蠻とは何事ぞ、西洋の事にも取るべきあり、取るべからざるあり、文明には利もあり害もあることなれば、能く之を察して、取捨に迷はざるこそ眞の文明人とはいふべけれ。今や季節漸く暑に入りて、衣服を輕減し、無用の物を取り去り、冷水摩擦をも始めて、皮膚、延いては身體を强健ならしむるに、最も適當の時期とはなれり、我等は此期を外さず何人も之を實行して、自然の幸福を充分享有せられんことを、望むものなり。

銷夏の方法

四季には四季の特色あり、變化ありてぞ一年が面白くなるにて、年中春でも、秋でも困つたものなり、暑い暑いと言はどとて、涼しくなるにもあらず、暑いは夏の持ち前として、其暮し方を考へざるべからず、避暑と稱へて、海山に赴く者は當分はよきも、程なく退屈を催し、風景も思ふたほどにはなきものなり、さりとて何處にも行かず、内に寢轉がり居れば、やがて腸胃を損ね、氣分屈託して面白からず、つまりは何もせず樂をして暮らさんと考ふるが間違なり。銷夏の唯一の方法は働くにあり、一生懸命に働き居らば百度の熱も暑からず、仕事の片付くが面白くて、夏の立つが名殘惜しきほどなり。綠陰涼風の下に書を讀むは、夏時特別の樂みにして、書好まざらん者の到底伺ひ知る所にあらず。就中語學及び音樂の練習は夏休に最も適當なるものなり、長きものは飽き易けれど、語學は一字にても覺ゆれば得にて、時間の斷片も役立つなり、音樂は苦みの中にも樂みありて、十分間の練習もそれ丈け効のあるものなり、夏は歸省せる女學生が、學校にて敎へられし理論を、實地に應用すべき絕好の機會なり、隨分飯の炊き方、香物の漬け方にも苦勞すべし、旅行も好し、それも方々歩き廻る旅行にして、一所に滯留する無爲の惰け旅行にあらずと知るべし。

旅行の一新紀元

從來我が國にて、旅行といはゞ、汽船若くは鐵道會社の船車に個人が便乘するまでの事にて、私に大船を艤ふて、申込者を募り、大擧同一の目的に向て同一の旅行を企つるが如きことなかりしが、今回東京朝日新聞社は四千噸に近き汽船ロセッタ丸を艤して、滿韓の巡航を企て、廣く士民に彼地視察の好機會を提供したるは、實に我國に於ける旅行の一新紀元を拓くものとして、甚だ壯快なることなり。西洋にては旅行會社なるものありて、夏時夜中の太陽を見に諾威に航し、又は以太利、埃及、パレスチナ旅行等を企つることありて、敢て珍らしきとするに足らざるも、我國にては實に案外なる事なり、願くば此度を手始めとして、漸次樺太、千島、浦鹽、支那、臺灣、南洋諸島にも、出掛くるやう致したきものなり。而して此度の申込者多くして早くも滿員の盛況を呈せるを見て、我國民の進取的氣象を喜ぶと同時に、婦人が其中幾人ありしかは、特別の興味を以て、我等の聞かんと欲する所なり。

婦人の手腕

日本基督敎婦人矯風會は、各種の矯風を目的とする基督敎を信ずる日本婦人の團體にして、設立以來十數年の歲月を經、本部を東京に、支部を各地方に置きて、矯風の爲に熱心盡力し、其成績亦頗る見るべきものあり、同會は本月十日より十三日まで其第十四回大會を東京に於て催すといふ。今其次第書を見るに、秩序整然如何にも良く分業行はれたり、先づ注目すべきは、會頭より役員書記（會員は勿論）に至るまで即ち頭腦より手足まですべて婦人なることなり、次に本會の分業を見るに、無酵課、軍人課、日曜學校課、禁煙課、風俗課、救濟課、母の會課幼兒課、交際課、遺傳課、教育課、安息日課、文書課、動物優待課、議事法研究課、法律課、花の課、衛生課、傳道課、懸賞文學課の二十課ありて、課長はすべて其道に堪能なる婦人之に當り、大會には、各課の事業成績の報告ありといふ、婦人の事務的手腕も此所まで發達すれば、充分なりといふべし。我等は宗教の異同を問はず、各課の名目が示す如き矯風の精神と事業の擧げ方とに就て、一般婦人會の模取すべきもののあるを覺ふ。

七十三歲

日本婦人矯風會々頭矢島楫子女史は、本年米國ボストンに開かるゝ萬國婦人矯風會に日本婦人矯風會を代表して出席せらるゝといふ、女史本年七十三歲、他は言はずして可なり、人は氣力だにあらば老年はなきものなり、今の若き婦人それ發奮せよ。

女子の園藝

或る田舍の農夫の妻、家業の餘暇、家鷄を飼ひて、其卵を生む毎に、私に代りて御奉公をして呉れたりとて喜べりとの話を聞きたるが、如何にも其通りにて、一本の大根を作り、一箇の卵を生ますも、國の爲めならぬはなし、又花は買ふもの貰ふものとなれるを、種々の花卉を自ら培養して、人にも遣り、己れも樂むことは、利益と趣味と併せ得るものにして、結構なることとなり。近來園藝の效用漸く認められ、夏期、女子園藝講習會などの催しあるは喜ぶべきことなり。我等は都會の婦人にも、普ねく園藝の趣味が理解せられ、家庭が淸新なる娛樂と望外の利益とを見出さんことを望む。

▲次號の論說

一將來の日本婦人論　鎌田榮吉

町五百二十番

（本號には破格の拜謁を受けたる櫻井中尉の左手になる旅順望臺躍出の圖額面大のものを添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

上代の日本婦人

文學博士　芳賀矢一

日本が露西亞を相手にした大戰爭て、歷史上未曾有な大捷を得たのに對して、西洋人はまるで夢ても見て居るやうに驚いた。どうしても其理屈が分らぬ。最初の中は菜食するから强いとか、水を飲むから强いとか、種々雜多な理屈をつけて見たが、段々と日本の歷史を知り、國情を調べて見ると、武士道といふものがあつて、これが全國民に行き渡つて居るから强いのだと合點した。戰捷の原因は單純に武士道の存在によるばかりでは無いが、國民の精神上に其理由を求める機になつたのは、とりも直さず、日本人を尊敬した見方である。これ迄は白皙人の外には、道義も無ければ、歷史も無いと思つて居たのが、誤謬であつたと始めて氣が附いたのである。そこで武士道、武士道とやかましく言ひ立て、盛に日本男子の武士道的精神を賞贊して居る。是は日本人の中にももとより多い。併し日本女子の武士道といふことに就いては、まだあまり唱導せられぬ樣である。日本では家族が社會の根本をなして居る以上、母と云ふもの、勢力感化がどの位であるかといふことに氣が附かねばならぬ、日本男子に武士道的精神が充滿ちて居るとすれば、其教訓は母から得たことは尠くない筈である。西洋人はまだ此點に氣が附かぬらしい、東洋では男尊女卑であると一概に見くびつて、日本人も此頃段々と西洋風になつて、女にも學問をさせる樣になつたなど合點して居るのである。成程女子教育の盛になつたのは近年の事に相違ない。併し女子の精神修養の事は、昔から決して怠つて居らぬのである。むづかしい漢字や理科や數學は習はなかつたとしても、女子が家に在つて、家庭の主人となり得るだけの、即ち賢母良妻としての教育は充分に施されて居たのである。つまり昔は女子が社會に出て活動せぬこと、極つて居つたから、其方面の教育は無かつたが、其代り家庭に於てのしつけ心のもち方については大變に注意せられたので、これが無かつたら、家族本位の日本社會が立派に進んで行ける筈は無かつたのである。武士の妻、商人の妻それ〴〵家の身分により、見識をもつて、祖先の名を汚さぬといふ考が主になつて、夫を助け、子を訓へるといふ風になつて居たのである。社會には出ない代りに家に於ての婦人の權力は決して西洋人の考へる樣な無意味なものでは無かつた。これは今日迄も傳はつて居つて、苟くも相當な家柄の妻たり母たる人は漢字などは一つも讀めぬ人でも、立派な見識をもち、氣慨をもつて居るのである。武士の妻は、武藝は知らぬ人でも、短刀を帶の間に挿んで、いざとなれば自害するだけの決心はある。身を汚し、名を汚す樣な事があれば、家に對して濟まぬ、祖先に對して申譯が無い、唯だこの氣慨が日本家庭の美しいところである。これ即ち女子の武士道的精神である。この女子に訓へられた國民であればこそ、武士道の精神を飽くまで發揮することが出來たので、日本の國風を論ずる人はこれを忘れてはならぬ。山内一豐の夫人の樣な賢婦人は類が少いとしても、細川忠興の夫人や、武林唯七の母の樣な人はなか〳〵澤山ある、武林の母の樣なのは今度の日露戰爭でも一二人はあつたらしい。昔話でもない、小說でもない、實際さういふ人があるといふことは羅馬の昔ならばいざ知らず、今日の個人主義の西洋では見たくても見られぬことである。

かういふ女子の氣風は武士道の發達と共に、中世以後出來たのかといふに、余はさうでは無からうと答へる。武士道の起原を尋ねればやはり上古の國民の中にも認められると同樣、女子のこの精神も上古から認められる。中世以後は唯だ益々助長され、發達したゞけであると考へる。その第一の手本としては、即ち天照大御神である。この女神は明かに我國女子の理想を現はしたものである。大神は女神であつて、平素は機織の事につとめ、農業を大切にし、女子としての職務は熱心にお務めなさつたのである。然るに素戔嗚尊が天上に攻上げられるとお聞きになつて、忽ち髮を結上げ裝をかゝげ、矢を負ひ弓を執つて、稜威の雄たけびをなさつたといふことである。この平常の御樣子と一旦變に逢はれた時の御決心とは正に日本女子の理想をあらはしたものではあるまいか。神功皇后が仲哀天皇の御崩御の後、男裝して三韓征伐にお出掛になつたといふのも、天照大神その儘といつてよろしい。稍後の頃の歷史になつて、調吉士伊企儺といふのが新羅に捕へられ、新羅王わが尻を喰へといつた壯烈な話があるが、その妻たる大葉子は敵に捕へられながら、「からくにの、きのへにたちて大葉子はひれふらすも、日本へむきて」といふ歌を作つた。その愛國の精神は伊企儺の妻として恥かしくない。又上毛野形名といふ人の妻は、自ら弓弦を鳴らして夫を勵まし、軍氣の沮喪したのを回復したことがある。誠に武士の妻である。かやうな實例を考へて見ると、上代の日本婦人が如何にもをゝしく、時に臨んで膽の坐つて居るといふことが分る。三十三年の北清事件に、北京籠城中、西洋人の婦女は皆日夜號泣したが、日本婦人はいづれも沈着で取亂さなかつたと聞いて居る。これが即ち武士道的精神の修養があるからである。上代婦人の遺風は今日まで殘つて居るのである。

妻の夫に及ぼし、母の子に及ぼす影響の大きい事はいふに及ばぬ。百萬の軍兵が海外に渡つて偉功を立てたのも、本國にはこの異性の武士が殘つて國土を護つたからである。過去三千歲家族制度を中心とせる我國運の發展は我婦女子の大なる助力が與つて力あるのである。今後女子教育の制度が如何に變らうとも、これだけは昔の儘に保存したいものである。これは國民最初からの氣風である。我國今後の婦人はいつまでも天照大神を理想とせねばならぬと思ふ。

七夕踊

さても七月七日は、天上に天の川とて、深き廣き川あり、一年にたゞ今宵ばかりに牽牛織女の逢夜なれば、かさゝぎの紅葉の橋を渡して、乞巧奠とて、人みな今宵は七夕祭りするも、なまめかし、こゝに七つ八つばかりなる小姫たち、美しく出立、太鼓を手ごとに持ちつれ、おもしろく歌ふうたひ、踊りまはるも、みなこれ七夕をなぐさむること、昔今に違らずとかや（正保の頃の靈書より）

美的趣味の養成

東京美術學校長　正木直彥

日本に於ける今日の教育法では、一般の人に美的趣味を養成せしむると云ふことが甚だ困難であるやうに思ふ。一體教育は智情意を圓滿ならしむるの目的であることは勿論であるが、美的趣味を養成するやうにしなければ完全なる教育法とは云はれぬ。而して美的趣味を養成するには、特に情育に重きを置かねばならぬ。この情育と云ふことが自然德育の要素ともなるのである。歐米では普通教育の一科目として美術史を教へて居るから、この思想が發達して居るが、日本人は一般にこの思想が進步して居らぬ。自分の考へでは、國の歷史と共に美術の歷史も一般的に普及さする方法をとらねばならぬと思ふ。殊に婦人は人を慰藉すべき位地に置かれてあるから、この思想を養成することが必要であると思ふ。

人は生れながらにして單に醜美を識別するだけの知識は何人も備へて居るが、美術上の眼識は教育によりて得らるゝものである。一國の文華の結晶したるものは美術であつて、美術は即ち文明の花である。故に文明人は野蠻人に比して、是に關する知識を多く有して居ることが明らかである。是れを日本の家庭に就て見るに、中流以上の家に育ちし子女は自然美術に關する相當の知識を有して居るが、永年裏店住ゐでもして居るやうな者の子供には斯かる思想が皆無と云ふて宜しい。是れは前者は後者に比し比較的進步したる生活狀態にありし處から、凡てに於て斯かる思想を養ふべき機會の多かつたのに基因することゝ思ふ。

日本婦人の集會の席上には更らに話らしい話がない。無益の空談でなくば他人の批評ぐらゐて時を過して居る。是れは云ふまでもない趣味に乏しい婦人が多いからてある。若し是等の婦人に美術、文學方面の思想があつたら何うであらう。談話の趣味の高尙にして交際上に樂みの多いことは勿論、知識の交換も出來れば、延いては趣味ある家庭を作ることも出來るやうになるのである。

美術と云へば何にか贅澤でもするやうに考へる人もあるが、是れは大いなる誤りである。兎に角「美」は精神界に慰安を與ふるものであるから、音樂の美、彫刻の美、繪畫の美等、必ずしも高價なるものに依りてのみ得るとは限らぬ。唯だ斯かる趣味を養成してさへ置けば高尙なる樂みを味ふと同時に、高雅なる性格を作り得らるゝのである。要するに吾が日本は近年非常なる進步發達をしたと云ふが、まだ〳〵他の文明國に較べては及ばぬ所が澤山にあるのである。其の中でも趣味ある家庭を作り、高雅なる人格を作ると云ふ大切なことが忘られてある。何うかこの美的趣味の養成法をして一日も早く完備の域に逹せしめたいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

巣立

三島霜川

お澄は、ふッと眼を覺した。見ると、東の窓に、うッすりと明昧が映してゐて、九尺二間の狹い家の裡は、冷に、ひッそりとしてゐた。煤だらけの屋根裏は、尚だ日光が屆かぬか、黯然としてゐる。

「おや、もう夜が明けたのかしら？」

と思ッてゐると、井戸の方で、ざアと水をあける音がする。夜が明けたに違ひない。さらば、もう働の時が來たのである。辛いと謂ッても、情ないと謂ッても、何んと謂ッても爲方が無い。お澄は、二三日前から一家の柱となッて、あらゆる苦勞を身一ツに引受けて働かなければならぬ。二三日前までは、生活が辛いと謂ッて、其處には尫弱いながらも父といふ柱があッて、苦勞は半分づゝ分け合ッてゐた。雖然其の父は、三四日前に亡くなッて了ッた。そこでお澄の肩には、盲目の祖父様と、今年十一になる弟とが縋れかゝることゝなッた。設令一合の米にしろ一束の薪にしろ、自分の小腕から稼ぎ出さなければ、兩人といふものは空しく餓死しなければならない。此の世の中に、此くばかり辛い淺猿しい情ない務があらうか。併しお澄は、奈何にしても此の務に耐へて行かなければならぬ。それが運命の神の指圖である。

お澄は、穉い時母に逝かれて、父の硬い手で育てられて來たのであッた。そして去年十三の夏の初から、町へ花を賣りに出て、父の生活を助けてゐたのである。町の者は、たゞ孝行な花賣娘よと謂ッて、奈何にお澄を憐がッてゐたであらう。固より貯とても無かッたのであるから、お澄は先づ、此の日の糧からして用意しなければならぬのであッた。て、眼が覺めると直に、

「あゝ、何うすれば可いのだらう。」

と曰ッた。ふと見ると、弟とお祖父様とは、枕を並べて、破蚊帳の中に鞠のやうに縮こまりながらも、それでも浮世の苦艱を脱けてゐるやうに、すや〳〵と眠ッてゐる。其の姿を見ると、お澄は奮發せずにゐられない。

「働かう！一生懸命に働きませう。」

といふ考が火のやうに燃上る。其の勢で、お澄は勢好く飛起きて了ッた。時は次第に移ッて行く。其處らの寺から撞き出す鐘は、恰て疾く町へ出なと謂はぬばかりに響出した。もう花を賣りに行くべき時が來たのである。ぐづついてゐては、糧を得る時を逸して了ふ。務だから爲方が無い、お澄は何うしても町へ糧を取りに行かなければならない。

お澄は、先づ前の日に賣殘した百合や夏菊や撫子や、夏花のいろ〳〵を籠の中に入れた。此の賣殘りの品が財産である。これを資本にして、お澄は、自分と共に三つの口を養はなければならぬのである。思へば價値のある花である。さて、スッカリ、支度の出來たところで、お澄は、爐に火を焚付けた。それからお祖父様の耳元へ口を差寄せて、

「お祖父さん、私行って來ますよ。あのお湯を沸して置きましたから、……」

盲目の祖父様は、僅に頭を擧げて、うなづいた。お澄は、弟の眼の覺めぬやうに、と靜に雨戸を啓けて外へ出た。日は、もう登ッて、美しい夏の朝であッた。ちゝちと小鳥の啼いてゐるのも爽に聞える。

「お、好いお天氣だ。」

と空を見上げた。鳥影が、ちらと眼に映ッて直に消えた。

お澄は、笠も被らずに、いつもの朝のやうに、「花屋い、花買ふて呉れンかえ。」と土地訛で聲高に呼ばりながら、次第に賑ふ町の方へ歩む。併し此の朝は、何うしたか少しも花が賣れなかッた。そこでまた生活の辛さが思はれて悄然した。彼是するうちに、同じ年頃位の學校通の町の娘等が見えて來た。お澄は其人等を見ると何となく羨ましくてならなかッた。

「私も、何んだって那の人等のやうな身分に生れて來なかったのだらう。」

と此樣なことを考續けながら茫然して少時默ッて歩いてゐると、

「花賣、おい、花屋。」

と皺枯れた、併し何處か、暖味のある優しい聲で呼掛けたものがある。振向いて見ると、何時の間に傍へ寄ッて來たのか、それは、顧客のうちでも、一番親切にして呉れる或る大家の隱居の老人である。

お澄は、どぎまぎしながら叮嚀にお辭儀をした。老人は、片頰に慈悲の深さうな皺を刻むて、にッこりしながら、

「今朝は、何故寄らなかったのぢや、むゝ、何うしたのだ。久らく影を見せなかったの。」

「はい、阿父さんが病氣だッたものですから……」

「然う然う、然うぢやッたの。」と老人は、幾度か、うなづいて、「そして何うした、癒ッたかの。」

「いゝえ、終々亡くなりました。」と催涙む。

「亡くなった？」

「はい、三日以前に。」

「それは、大きに困るの……情ないことをしたの。それでは何か、お前が一家を擔って立たなければならんといふ譯か。それは兎に角氣の毒なことをしたの。盲目の爺さんに弟があるとか謂ッたな。やれ、やれ、それは大變だ。」

「眞個大變なんでございます。」

「併し氣を落さんが可い、なア。人といふものは、何様な辛い目に逢ッても、正直に能く働いてさへゐたら、誰か助けて呉れるものぢや。今日は、私が、其の花を殘らず賣ッて遣ろからの。」

お澄は、のべつにお辭儀をした。老人は懷中を探ッて、五錢の白銅と十錢の銀貨と、都合五ッ取出して、手渡しやうとすると、お澄は、眼を睜ッて、驚いた顏。

「これでは、大變に餘計でございます。皆差上げても廿錢ばかりしか無いのでございますから……」

「可いから取ッて置け。餘ッたのはお前に遣るのぢや。」

とお澄の辭むのを無理に持たせて、

「私は今、出先ぢやから、もう一時間ばかり經ッたら持ッて來て呉れ。可いか、もう一時間ぢやぞ。」

と念を押しながら、老人は歩み出す。お澄はまた妄とお辭儀をして、少し呆氣に取られた體であッた。白銅と銀貨を取混ぜて卅五錢の金は、終に其の手に握らせられて了ッたのである。

「眞ンとに好いお爺さんだ、あんなお祖父様を持ッてゐる人は、まア、どんなに幸なことだらう。」

と考へながら、とぼ〳〵と歩出すと、丁度老人も此方を向いた。

お澄は、老人の親切に、少し元氣づいて來た。老人が、一日暮すだけに充分な鳥目を呉れたのであるから、もう賣らずとも好い筈であるけれども、そこが生活をするものゝ辛さと謂はなければならぬ。

お澄は、更に花の問屋に駈付けて、一束でも餘計に花を仕入れて、少しても多くの儲を得やうとした。

此くて彼は、問屋から仕入れた花を一杯籠に盛ッて、勢好く「花買ふて呉れんかえ。」と呼ばりながら、今しも唯ある横町の角まで來ると、其處から、宛然に流星の如く駈出した一臺の俥！……あらよといふ間も無い、お澄は、車夫に突飛ばされて横さまに、花籠は、彼の手から抛り出されて、花は微塵！車夫は、後も振向かず本通の方へ雲を霞。あはれ、花籠は、俥に轢かれて花と共に滅茶々々になッて了ッた。

お澄は、辛而のことて立起ッた。幸に怪我といふ程の怪我も無かッたが、轢かれた花籠は、お澄等三人に取ッては、實に糧を得る資袋であッた。其の花籠を繋の綱に、お澄は、餘程巧に生活をして行かなければならぬのであッた。が、もう其の頼の綱も斷れて了ッた。これて、お澄等の財産は、根コソゲ無くなッて了ッた。固より更に花籠と花を仕入れるだけの資本とても無い。否！お澄の懷中には倘若干かの鳥目が殘ッてゐるが、これとても花が無くては他の物である。其に足して彼の老人に返さなければならぬ。

これがまた、お澄の惑の因となッた。成程白銅を返せば正直である、潔白である。けれども、返して了へば、盲目の祖父様と、頑是の無い弟に「飢」といふ恐ろしい苦艱を嘗めさなければならぬ。今となッては、老人の情は、反ッてお澄を苦しめる枷となッた。お澄の智慧は倘だ、彼の老人の許へ行ッて、事の顛末を打明して慈悲の袖に縋るだけに行屆いてゐなかッたのである。

「何うすれば可いのだらう、私は、解らなくなッて了ッた。」

種々と思案を廻らしてゐるうちに、其の足は何時か我が家の方に向ッてゐた。そして家に近くなるに從ッて、お澄の決心は次第に固まるのであッた。彼は若干かの鳥目を糧に換へるとに定めて了ッた。お澄は、次の日奈何にして生活をするてあらう。

（をはり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

衞生小說 夏化粧

糸 左 近

某家の夫人『日に燒けぬ方法が御座いますまいか、御座いますなら何卒敎へて頂きいものでありますが。』

ドクトル『エーと……、有ります、即ち少しも日に當らぬやう土藏の中にでも閉ぢ籠つて、凝然と座禪でもして居らつしやい』

夫『オヤ呆れたこと被仰る、先生の御言葉とも思はれませぬ、先生の御言葉なら、大いに運動せよとか、或は海水浴でもしろとか御勸めになりさうなもの、それだのに土藏へ閉ぢ籠つて座禪なんかオホヽヽ』

ド『アハヽヽヽ、其樣な結構な事御存知て有つて無理な御注文なさるぢや御座いませぬか、例へば朝から晩まで深窓の下に書物ばかり見て居た所で多少太陽の光線が指す以上は、其の光線中の或物が皮膚の色素を沈着せしむる作用あるものです而して其れが仲々の藥です、然るに渺々たる海原で食鹽を含んだる水に浴びながら、色を黑くさせまいなどとは恰も食事を取らずして、健康になる法は無いかと御尋ねになるやうなもので、』

夫『しますと、其れは先づ無いとして……、アノ私は何うも汗性で御座いまして、折角御化粧致しましても、人樣の御家へ着く時分は彼處此處白粉が剝げ、其の醜い事は迚も形容出來ませぬ、何とか斯う無らぬ工夫は御座いますまいか。』

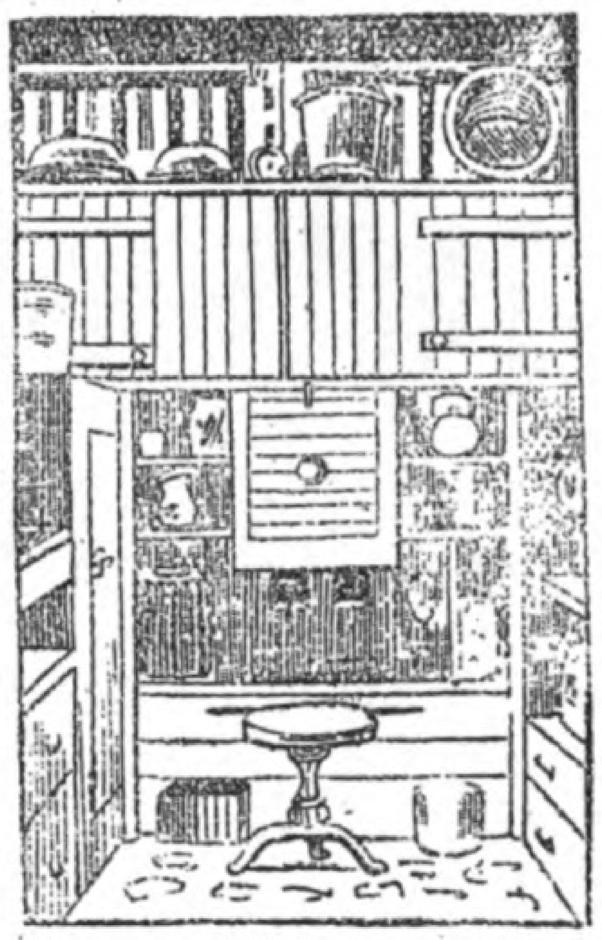
ド『有ります、白粉を附けぬが可いでせう』

夫『先生は人を揶揄つてばかり居らつしやること、其癖先生の奧樣は毎年夏になると、海水浴に行らしつて、其れで御色が少しも黑くならず、又宅へ御出になつても、些とも汗を御出しになりませぬのに……』

ド『愚妻ですか、彼女も矢張不自然たるを免れぬのです、私が何と叱りましても、硫酸規尼涅十瓦リスリン軟膏百瓦の割合で混ぜたる物を、手や顏へ塗つて海水浴を行るし、それから夏になると、何時も水揚酸を顏へ撒布して、汗止をするんですもの、其の黑くなるのが藥で、夏は汗を流すが道なることを悟らぬには實に困つてゐますよ。』

夫『夫等の藥は有害な物で御座いますやら?』

ド『別に有害といふ譯では有りませぬけれど、私の理想とする所は、自然の色に



安んじて、流る可き汗を流すのです、即ち、貴女方は天然の理法に背いて、人工的の化粧をなさるから不可ませぬ、夏に於る天然の理法を申しますれば、夏は殊に早起して午前中は讀書なり針仕事なりの坐仕事をし、日中になつたら、拭掃除洗濯など、可成勞働をなすと、ボツボと暑くなつて滿身の汗はタラ〳〵と流れて來ます、そこで入湯するのです、さア堪らぬ、暑い事をして熱い物に入るのだから、汗は瀧のやうに落ちます、斯うして卅分間も湯から上つたり入つたりして、夫より乾きたる手拭を以て身體を拭ひ、頭は良好なる石鹸をつけて徐ろに洗ひ、浴衣を着ながら北窓の下に又三十分間も休んで居ると、皮膚の反射作用に依つて、非常に涼しさを感じ、夏の何物たるを知らぬやうになります、それより外出して御覽じませ、其樣に汗の出るものでは御座いませぬ、これが私の避暑法で、今日も矢張さうして參つたのです。』

夫『して見ますと、

西日さす九尺二間の家にても
道を盡せば涼しかりけり

て御座いますね。』

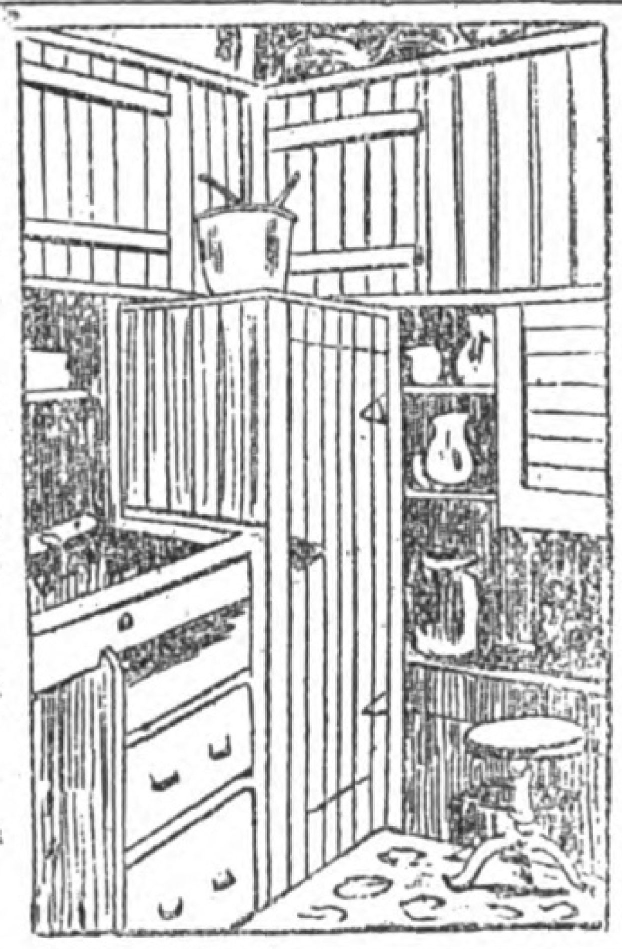
(終)

官吏の夫人と實業家の夫人

評議員 某實業家夫人

官吏の妻と實業家の妻とを較べて見ますと、今日では甚だしき社會階級上の隔たりと生活問題に相違があります、官吏の妻は其夫が高き位にあれば、恰も其妻までが高き位にあるかの如く、自身は素よりのこと社會でも之を奉り、交際場裡に於ても花の如く持て囃されますが、夫が高位高官に登ると云ふことは夫の手腕一つにあることで、妻の知識なり妻の助言に依つて其位置を得たと云ふ人は古今東西未だ嘗て無き處で、妻は公事に對しては一言の嘴を容ることを許さず、板倉勝正が其の妻を戒めた如く、成べく妻の干渉を避けまして、其妻は只家庭の平和を維持し、月給を貰つた範圍に於て其家計を營むことにさへ注意すれば夫れで事足る次第で、夫の仕事に對しては同情も無く、又何等の興味も感じません、之に反して實業家の妻は、今日の社會上からは極めて卑められたものになつて居りますが、夫の仕事に對し夫と共に働き、夫をして成功せしむることに大なる力を與へねばなりません、私共は幸に夫と共に稼いだ結果、今では數十萬の身代を作り上げましたが、其間の苦勞苦心は尋常一樣ではありません、定日に定額の給料を受ける官吏の妻とは較べものになりません、元來夫は外に出て働き、且つ積極的動作をもなすものでありますから、妻は家に在つて商店の取締に任じ、夫の遣り過ぎたと思ふ處は是れを矯めて折合を付け、殊に女は交際に巧みなるが故に、其交際術を應用して、或時は商業上の駈引にまで立ち入つて之を纒め、夫が出先きで失敗して歸つた時は之を慰藉し、同情し、發奮せしめ、再び勇氣を盛返し

て其失敗を取返へさすやうに計り、また傭人に對する時の如きは、夫は秋風烈日の如く嚴肅に傭人を叱り散らし、傭人の元氣沮喪せし場合には妻が春風暖日の如き情を以て、窃に蔭に回つて之を慰め和らげ、再び主家の爲に全力を注がしむるが如き、商家に在つては平日が戰場の如く、夫は勇將にして妻は謀士の如く、黑幕の中に在つて之を働かしむるの知識と膽力を要するのであります、斯の如くに



して儲け得たる數十萬金は、敲けば鳴る金で一金と雖も生きて居らぬものはありません、官吏の如く臍繰金を貯へるのとは甚だ其撰を異にして居ります、困難のある處快樂亦之に伴ひ、仕事に對する興味は又云ふ可からさるの快樂でありますす、是れからの日本は實業家の日本てあります、實業に依て我國の負債も返却し、我國の發展も計らねばなりません、故に人の妻とならんものは、先づ實業家の妻たらんことを御勸め致します、其代り夫と共に奮鬪するの覺悟と素養とを要し、鐵の如き身體、高尙なる知識、巧妙なる交際術等の修養あるものでなくては、到底實業家の妻たる資格は無いのであります。

結婚後の五十年

評議員 岩佐德子

私の生れた國は福井でありまして、始めて東京へ登つた時は所謂る東海道を道中して來たのでありましたので、未だ其頃は大井川を人の肩に依り子供三人を連れて蓮臺に乘つて渡りました、富士川の渡しにかゝると、水嵩が增して船頭が舟を出すことを拒みました、其處で供の者が白刃を拔いて强脅して漸く渡つたことを覺えて居ります、今日から見れば實に夢のやうであります、爾來東京に住みましたが、主人は醫師ゆゑ其職業は非常に多忙で、朝は早くより外に出て夜は遲く歸ると云ふ有樣でありますが、夫れに伴れて家庭も甚だ繁忙でありましたが、主人が外で業務の爲に働く其困難を思ひますと、家に居て妻が働く位ぬのことは容易なことでありますから、力を盡されるだけ働きました、今日に至るまで何程暑い時でも、避暑なぞを致したことは一日もなく、休暇中の保養なぞと云ふて溫泉に遊ぶと云ふやうなことも更になく、未だ鎌倉江の島なども知らぬ程であります、夜は何程遲くなつても端然と座して、主人の歸りを待受けると云ふ慣習が自然について居ります、此度金婚式を擧ぐるについては、宮中始め諸方より種々なる祝ひ物を戴きましたが、中には絹製の座布團なぞも贈られまして、何うか此上に据ろやうにと云ふ御言傳でありましたが、私が座布團を敷いて据ろやうになつては私の壽命はないので、若も若い間から座布團なぞを敷いて樂々と致して居りましたなら、金婚式なぞを擧げることは出來なかつたかも知れません、未だ〳〵是れからも大いに働く積りでありますから、座布團の上に据ることは御免を蒙ると云つて笑つたことであります、過去の五十年間を振返つて見ますと、總て皆働きの時代であつて、樂しみの時と云ふては殆ど思ひ浮ばぬ程であります、左の拙き詩と歌とは主人と私とが作つて來賓諸氏に配つたものであります。

桃李園中咲　鴛鴦池上眠
幸遇聖明世　伉儷五十年

海やまの妹背のためし契りあひて
こかれとよはふさちそ婚しき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉名譽會員推戴　今般有栖川宮妃勲一等慰子殿下を本會名譽會員に推戴の儀兼て請願中の所去る廿六日御承諾相成りたり

◉評議員會　七月分日取は左の如し
七月十一日（第二水曜日）午後一時卅分

◉理事顧問會　七月分日取は左の如し
七月四日（第一水曜日）午後一時卅分

◉暑中の會議休會　別項二會議を除く外七八兩月分は暑中につき臨時會議開催の必要を認めたる場合始めて開會なす外定期の會議は休會す

廣告

今般有栖川宮妃殿下本會名譽會員ニ拜戴ノ儀御聽許相成候ニ付此段本會員諸君ニ告グ

明治卅九年六月廿五日

愛國婦人會

◉紀念徽章作製　我が會員にして戰爭中陸海軍の慰安存恤につとめたる人々に對し分捕大砲を以て作りたる紀念徽章を交付する都合なり其雛形等については別に委員を設け選定する筈にて去る卅日本部にて第一回委員會を開きたり

◉有功章授與　六月廿二日閑院宮邸に於て左の人々に對し有功章御親授あらせられ岩倉會長も立會されたり

特別徽章　北海道支部長　大塚富世子
同　北海道支部顧問男爵　園田安賢
同　同　大塚貢
同　福島支部長　河島らく子
同　同顧問　河島醇

又た本會第五回總會開會の當日三等有功章を授與されたるは左の諸氏なり

▲三等有功章受領者

功續

評議員　伊澤千世子
同　棚橋絢子
同　佐方鎮子
同　三輪田眞佐子
元評議員　河野せき子
東京支部幹事　霜田浪子
茨城支部幹事長　立花たか子
東京支部幹事　高田花子
東京　長谷川壽太郎
東京幹事部顧問　金田吉郎
東京支部幹事　笹岡左智
群馬支部幹事長　橋本さの子
同　山崎けい子
同　關鉎三郎
全支部幹事部顧問　森こと子
群馬支部幹事　上原隆子
同　松下ヨネ子
群馬支部委員　米澤太造
同　塚越藤三郎
同幹事　淺見六子

同　新山雅樂子
同　跡見花蹊
同　税所あい子
同　下田歌子
茨城支部幹事長　關口ふじ子
東京支部幹事　相澤嘉滿子
東京支部幹事部長　金田あい子
東京　仁杉英
同　松本嘉兵衛
同　橋口常彦
同　淺尾忠子
同　關クマ子
同支部幹事部顧問　橋本求
同　山崎金四郎
同　都丸しめ子
同　飛澤タカ子
同　荒喜トク子
同　湯淺又五郎
群馬支部評議員　勝部賴子
埼玉支部評議員　高橋布美子

寄附

東京　渡邊東一郎
男爵夫人　有地捨子
福井支部幹事　大和田ます
同幹事　宮崎よし
群馬支部幹事　五十嵐ふき
同　住谷幸

◉奧村刀自　山形福島兩支部內遊説中の處去る廿七日歸京せり

◉評議員三井晴子氏の訃音　本會評議員三井晴子氏は去る廿八日逝去せしにより本會より弔詞を贈り又本會を代表し高木鎌子氏中山幸子氏同邸へ至り弔詞を述べ葬儀の際は本會を代表し岩佐德子氏外七名會葬せり

◉寄附金　支那より左の書面を添へ奧村刀自の手を經て寄附金ありたり

謹啓貴會益々御繁昌にして愈々御活動の段乍遠方誠に目覺敷轉た感淚に咽び申候扨て此度當地豪商の一齋頤常島九と申者永らく煩居候處養生不相叶數日前永逝致候に付我同人打寄り薄葬を供し候處其內金錢のみは遺言に依り堅く謝絕する旨申出候然るに人有り大慈大仁なる貴會のあるを告げしに其未亡人李氏及嗣子常維松は是れ實に先人の志なりとて直に貴會へ寄贈方（金五十圓）願出候に付大同情を以て幸便に托し御送付仕候何卒彼等の微衷を容れ枉て御嘉納の上可然御取計被下度企望に御座候恐惶謹言

清國昌圖府軍政官　大原武慶

各地支部狀況

◉北海道支部　旭川町に於て招魂祭施行されたる時は支部より百圓を支出して遺族待過費に充て其配分方は師團に依賴し支部より大塚支部長大島副長會員一同を代表し參拜せり式後安食上川幹事部長を隨へ休憩所に至り參拜遺族に悉く面接し懇切なる挨拶を陳べたり尙札幌區大通練兵場に於ける招魂祭には靈前へ支部長及び札幌、區兩幹事部より何れも菓子を献供し裝飾したる遺族控所を作り參拜者の便に供せり禮拜は會員一同に代り支部長副長札幌兩幹事部長に於て代拜し式後支部長以下總出にて遺族の接待に從事せり

◉山形支部　同縣西田川郡幹事部總會は去る十七日郡會議事堂に於て開會せり午前十時を合圖に君ケ代の奏樂あり山宮幹事部長開會の挨拶を陳べ夫れより豫定の順序に式を終へ閉會を告げたるは午前十一時三十分なり式後一同休憩所に於て賄券引換に折詰の晝飯を受取り午飯を畢へ一同退散せしは午後二時夜は演藝會の催しありて盛會なりし

◉福島支部　奧村刀自山形支部へ出張の際立寄りしを好機とし同地公會堂に於て演説會を開き非常に盛會なりし

◉長野支部　同市善光寺開帳を機として參拜遺族に四月十三日より五月廿日迄三十七日間各町の會員出張茶菓を饗應せしよし其收支決算は收入の部として寄附金百五圓二十錢支出の部百六十四圓四十八錢五厘にして五十九圓餘は支部經費より支出せりと云ふ

◉兵庫支部　姬路幹事部會第二回總會を六月廿四日同地偕行社內に於て開けり服部支部長は船井幹事重見主事を隨へ臨場せり當日は小雨なりしも會するもの二百六十名の多數にて遺族癈兵の招待に應じ出席せしもの四十九名なり來賓は師團長夫人始め文武高等官四十五名にして午後二時式を始め大塚幹事部長開會を報じ君ケ代の奏樂あり皇后陛下御令旨及總裁宮殿下御諭旨捧讀の後ち支部長式辭を朗讀し次て大塚顧問は幹事部創立以來の經歷を說き擴張方法に論及し來賓の演説祝詞あり嚴肅に式を終へ式後會員及來賓には茶菓を饗し遺族癈兵には菓子折の外殿下御染筆寫會長歌入扇子を贈與し餘興として蓄音器舞踏等ありて甚た盛會なりし

◉東京支部　會長の檄文に對し會員大募集の計畫を立て去月廿七日本部樓上に於て幹事會を開會し左の人員配當表により各區に別ち二萬七千餘人を募集する筈也

一ケ年募集會員各幹事部劃當標準

幹事部別	女子人口	現在會員數	增募スヘキ會員數	計
麴町區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神田區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日本橋區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京橋區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
芝區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
麻布區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
赤坂區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四谷區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
牛込區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小石川區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
本鄉區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
下谷區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
淺草區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
本所區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
深川區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
荏原郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
豐多摩郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南多摩郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
西多摩郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北多摩郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南足立郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北豐島郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南葛飾郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

▲正誤　五月廿日發行紙上愛國婦人會各支部會員數表中滋賀支部會員數を六、四九九名と記載せしは年賦會員のみにして外に終身會員五四〇名を脫漏せしに付總會員數は七、〇三九名の誤りに付茲に正誤す

東北遊説日誌

奧村五百子刀自一行

▲六月十四日　午後五時三十七分無事福島着役員會員の出迎を受け藤金旅館に投ず有田支部長初め四五の役員來訪當夜は此處に一泊せらるゝならんと想像し公會堂にて一席の講話を願はんと朝來奔走聽衆を集めありしを以て午後七時より演説を賴むとの事にて女史は快諾せられ同時刻に公會堂に到り八時より講話を初む有田顧問初め各事務官有志支部職員出席一般聽衆約三百餘名あり支部長開會の辭を述べ次に例の如く自分と奧村女史と講話し十一時閉會を告ぐ明日は午前九時四十五分當驛發の列車にて山形へ向ふ豫定なり

▲六月十五日　午前九時旅舍を出て亦十字社支部に到り支部長初め役員諸氏と共に撮影し同四十五分福島發の列車にて山形に向ひたり支部長は役員二十餘名と車務員を率ゐてプラットホームに見送られたり午後二時十分山形へ着田中顧問を初め岩本副長外役員十數名停車場迄出迎はれ小倉專務員若林副長は前驛迄出迎はる我等は旅舖町後藤旅館に投ず田中知事初め役員來訪せられたり

▲六月十六日　午前八時三十五分山形發の列車にて知事初め岩本副長池田外一名の郡議員小倉專務員同行新庄驛に到り夫より腕車にて十五里の道程を進み午後六時鶴岡に着す郊端にて遺族癈兵役員會員の出迎を受け一行は渡邊旅館に投ず來訪者續々ありたり

▲六月十七日　午前十時より郡會議事堂に於て西田川郡幹事部第一回總會舉行本日は天氣快晴なりしを以て早天より會員の來集するもの引きも切れず定刻に至りて構場立錐の餘地なきに至れり場の內外には各國旗を飾り式場正面一段高き處に總裁殿下の御眞影を奉置せり田中顧問初め齋藤事務官水丸技師飽海郡長並に下幹事部長外二三の役員各町村長委員有志十數名支部役員參列遺族百二十六人癈兵五人其他會員役員總計約二千を數へたり式はいと嚴かに舉行せられ式後參集者一同撮影せり遺族癈兵には勿論集りし會員に悉皆折詰を給したり午後一時より講話會を開き例の如く奧村女史と自分と講話し四時閉會旅宿に歸りたり

▲六月十八日　午前九時山宮郡長の許を訪問せり午後一時半より常念寺に於て一般人士に對し講話會開催せられしに集まるもの約二千五百餘名幹事部事務員開會の趣意を述べ次に自分と奧村女史と約三時間の講話をなし [illegible]

▲六月十九日　午前八時鶴岡出發酒田町に向ふ支部より同行の役員四名は歸形せられ木村主事のみ同行せり山宮郡長初め同幹事部長幹事有志諸氏は同町郊端迄見送られ飽海郡の幹事部長下けい子氏西田幹事は鶴岡より同伴せられたり仝十二時酒田着途中役員會員の出迎を受け仝地の有志小山太吉氏方に投ず下郡長初め役員會員の來訪引きも切れず午後二時より常福寺に於て開會聽衆約千五百餘名下郡長開會の辭を述べ次に例の如く自分と奧村女史と講話し五時閉會せり後役員有志に挨拶を述べ歸宿せり

▲六月二十日　本日は酒田奉公義會解散式並に授癈兵賞品授與式舉行すべきに付是非奧村氏に出席を賴むとの事にて女史は承諾され午前十時より同式に臨みたり午後三時閉式仝四時より本間久四郎氏方に到り會の趣旨を述べ入會を依賴し六時歸宿來訪者多し

▲六月二十一日　午前七時小山氏方に於て役員一同と撮影し仝九時同所出發十五里の道程を腕車を驅りて午後六時三十分新庄に着伊藤旅館に投ず下郡長初め會員多數は郊端迄下幹事部長櫻井西田の兩幹事並に事務員は淸川迄見送らる戸澤最上郡事務員は淸川迄出迎はれ小鹽幹事部長初め役員數名は本合海迄出迎はれたり小鹽郡長初め有志諸氏來訪されたり

▲六月二十二日　午前は來訪者續々ありたり午後一時より新庄町に於ける郡會議事堂に於て講話會開催幹事部職員を初め各村長も來會せり聽衆約五百餘名 [illegible]

▲六月二十三日　午前九時新莊發の列車にて山形へ向ひたり小鹽郡長初め [illegible]

▲六月二十四日　午前十一時四十五分山形を發す [illegible]

▲六月二十五日　奧村女史夜中より腹痛嘔吐を催されたるも [illegible]

▲六月二十六日　午前六時郡山出發若松市に向ひ [illegible]

（富樫眞喜子記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會

小兒の保護と其救護事業（上）

文學士　下田次郎

西洋では勞働者殊に女子が日中會社工場などに出て、勞働に從事して居る間、困るは其子供の仕末である、固より家裕にして乳母や留守番の置けるほどならば、女は勞働に出掛けはすまいが、糊口の爲め止むを得ず出るのだから、一番子供の仕末に困るのである、そこで子供預り所（託兒所）といふものが、都會には出來て居て、朝出勤の時小兒を其所へ預けて置て、日中其世話をして貰ひ、夕歸る時立寄て小兒を連れて行くやうになつて居る。誠に良い仕組である、それで今自分が實際行て見た託兒所の一二を紹介しようと思ふ。

始めに見たのは獨逸のライプチヒ市の一託兒所である、（明治三十四年一月十九日朝午前參觀）。此日は土曜で少く四十人計りの小兒が居た、平常は其倍位來るといふ。世話をする婦人が二人付いて居た。子供は幼稚園に行く位の年配の者ばかり、中には腫物のある者、破れた着物を着て居る者も居た。仕事は大抵幼稚園で爲るやうなもので、行つたら、特別に小兒に色々やらせて觀せて呉れた。「獵人」といふ遊戲は「獵師」三人、「獵犬」三匹て、一匹の「兎」を追ふのである。「郵便」といふのは、驛車を形取りて、二人が馬となつて前に立ち、それに綱をつけ、一人が郵便屋となつて後から綱を持ち、その綱と綱との中に四人の子供が這入つて場内を廻るのである、他の子供は圓形になつて、「驛車」の廻るに合せて歌を唱ふ、其他徒手體操、行進運動をもした、皆それに合ふやう面白い歌が出來て居る。

次に見たのは、巴里の第五區プラース、モンジュといふ所の一託兒所である。（三十五年二月四日參觀）。託兒所のことを佛國ではクレーシュといふ。自分の見た託兒所は新築で、萬事良く整ひ、理想的のものである。家の前部に廣い一室があつて、中央に圓形の低い木の手すりが二重に出來、子供が其内、又は外に立ち、又は倚れて遊ぶやうになつて居る、室の周圍には椅子が並んで、大勢子供が座つて居る。又室の壁に沿ふて鍵の手に子車が十計り並んで、上から天幕のやうに覆ひが掛り、中に赤兒が寢て居る。次の小い室には、寢臺が澤山備へてあつて、食後など子供が眠くなると、此所に寢かすのである。その次の部屋は二つに仕切り、一方は庖廚で、子供の食物を調へ、牛乳など貯へてある、他の一方は病床で、病氣の時はこゝへ連れて來る。奥の左側は風呂場、便所となつて居る、子供は中々便の世話が厄介である。寢床を始め、すべて極めて清潔である。子供は生れて十五日の者より三歳までの者を預り、定員は三十三人であるが、申込みが多くて入れ切れぬといふ。一日十五サンチーム即ち六錢を拂へば、着物から食物をすつかり給して、世話をして呉れるのであると、（向ふての六錢は、日本では二錢にも當らぬ）、世話をする婦人が二人、一人は助手、一人は主任て、子供は皆主任の人をマンマ即ちお母さんと呼んで居る。此託兒所の設立及び維持は市よりの出金及び寄附金に依るといふ。第五區だけでクレーシュが三つある、巴里には二十區あるから、全體では餘程あるであらう。西洋には斯様に唯日中子供を預るのみならず、棄兒、貧兒、孤兒等を引取つて養育し、教育する所がある。其自分の見たものゝ中で、最も大規模に出來て居て、感心したのは、伯林のと、巴里のと、聖彼得斯堡のとである。

伯林で見たのは、アルチ、ヤコブ町の孤兒院である。（明治三十四年六月二十一日午前參觀す）院長シユーステル氏親切に案内せらる。此所には赤兒より十四歲までの者を收容し、六百十人位居た。收容の際には先づ湯に入れて身體を清潔にし、病兒は別居せしむ。行つた時には、外來室に二十人許りの子供が居つた、多くは顏色蒼白にして、營養の不良を示して居た。平常大きな子は湯札を持つて、町湯にゆくことが出來る。衣服、制服（黑色）、帽子、シャツは院より供給せられ、又一年に靴一足、毛糸の靴足袋二足を貰ふ。其他外よりの着物、シャツなどの贈物が澤山あつて、それ／＼分與される、寢床は簡單で、頭の所に引掛けのある棒があつて、それに衣服を吊し、下の所には、齒磨、楊枝を入れる嚢がある、朝は六時に起き、八時半に寢る、尤も幼兒は此限りにあらず、食事は六歲以上の者は食堂に行き、祈りをして後食す。飲料は一切水、料理人、肉と馬鈴薯を出して我々に試食せしめた。大きな娘は次の室で別に食事する、生徒の中から取締を命じて世話をさす。食後は運動場に出て散歩し、中には砂いぢりをする小兒もある。院内には學校があつて、大きな子供は敎育せられる、十五歲以上の娘で、曾て此處に居た者が、家政等を習ふために此所へ來る者もある。

嬰兒の養育は、醫學の發育せる獨逸國、殊には其首府のことにて、設備も世話も實に行屆いて居る。嬰兒が二十四人居た、定員は六十餘人といふ、赤兒は生れて八日目のもの、二週間位のもの、色々あり、雙子も居り、皆小い寢床にねて居た。病室、傳染病隔離室もある、乳は子の質によつて種々の濃薄、混合、分量あり、乳の壜を運ぶ器、乳を溫める器械、砂を入れて洗ふ仕掛け、皆精巧に出來て居り、浴室、病室、藥局、洗濯所、乾燥室など、孰れも設備が完全である。嬰兒收容所は五年の後には、二倍以上に擴張せられるので、今は出來上つた一部分に收容して居るのであるといふ。此方はドクトル、パッチンといふ醫師が委しく案内せられた、今一人醫師が居るといふ。此院の外、伯林附近にクラインベーレン、ルンメルスブルグ、リヒテルフェルデの三ヶ所に孤兒院があつて、伯林市より每年凡百八十萬マルクを支出するといふ。

櫻井中尉

附錄寫眞版を見たるものは又これを讀め、中尉の著「肉彈」の一節

悲憤禁ぜず、怨恨制し難き予は只だ目を閉ぢて切齒したばかり、既にして息苦しくなつた。絕命の機も最早遠からじと覺つた。時に予の胸倉を掴んで引き上げたものがある。須臾にして又た放つた。予は微かに目を開き見れば、二三の露兵が坂を登り行つてゐた。嗚呼、予は既に捕虜たるの恥辱を受けんとしたのである！予を掴み又た予を棄てたる此の一刹那、これぞ生死のけぢめ、榮辱の境なりしぞ！敵は一旦予を掴み上げたるも、既に死せりと信じて打棄てたるならん。さもありぬべし、予の全身はこと／＼く朱に染み居たれば。

時に何者か一人、予の左側にチヨコ／＼と走り寄つて、無言の儘に仆れ掛つた。死せしかと思へばさにあらず、死者の眞似せるあり。稍あつて彼は予に耳語して

「歸りませう、私が助けます。」

予は絕え／＼に苦しき呼吸の中に、彼を見れば、ツイぞ見知らぬ一兵卒なり、其頭には繃帶を施して居た。予は彼の慈言に答ふるに、予は今の場合、迚も生還することを得ず、願はくは予を殺して歸れと賴んだれば、彼も生命を全うして連れ還ることは覺束ないが、死骸だけでも取つて歸る、敵中に棄て置くことは出來ぬと云ひなり、予の左手を握つて肩にかけ、又もや擔ぎ上げ、一息に走つて圍壁を飛び越すや、共にバタリと倒れた。而して手早く落ちたる外套を拾つて、予に打かけると、又た無言で予の右に伏した。かくて予は見知らぬ一兵に救はれて漸く出たが、其時圍壁の右角に脚が觸れて始めて劇烈なる苦痛を感じた。彼は暫くして又た予に密語いた。

「彈丸が今大分來ますから、少し待つてゐませう。」

彼は已れの銃劍を拂ひて、手拭にて予の折れたる右脚に副へて縛り付けた。其時予は喉喝きて水を欲すること一方ならざりしより、彼兵は其水筒を傾け盡して予に與へたが、「澤山飲んではいけぬ」と云ひ、又た「少し辛抱して下さい」と屢々慰めた。又た予の傍には幾多の戰友が唸き苦しんでゐたので、彼は信切にも、落ちたる水筒を拾つて、彼等の口に注ぎ與へた。彼は敵に見咎められじとや、死せる眞似して、予を蔽ひながら靜かに伏して居た。予は未だ此義俠なる兵卒の名を知らざりしなり

「おまへは何と云ふか？」

彼は微かなれども、力を籠めた聲で

「近藤竹三郎と云ひます。」

「何所の聯隊か？」

「高知聯隊です。」

予は實に部下にもあらず、同聯隊の兵にもあらず、未だ曾て一瞥だにせしことなき、他聯隊の勇士の救ふ所となつたのである。彼と予と、予と彼とは、如何なる宿縁の糸にて結ばれたるものなるかを知らず、されど知りぬ、我が軍隊に於ける上下の關係の親密なる事は、この近藤の如き、士卒の龜鑑、勇士の美談として千古に傳へらるべき人を產んだ所以である。嗚呼此人今や既に亡し、哀い哉！予は救い出だされてより數時間の後、人事不省に陷つて、而して再び蘇生したりし時、先づ予の念頭に浮んだものは、即ち近藤竹三郎てふ嘉はしき名であつた。

▲附言　附錄は即ちこの記事中にある近藤竹三郎氏が中尉を肩にして圍壁を飛び越ゆる所なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鼠の順禮

江戸　靜川

或るお家に忠右衛門と云ふ鼠が居りました、この鼠はお内儀さんと二人の間に近頃出來たお吉と云ふを頭に可愛らしい娘が三人までありながら、生れついての怠懈者で、自分で働いてお内儀さんや娘を養はうとはせいで、天井の梁の四辻に待ち伏せして、毎晩他の鼠が稼いて持ッて來る、お餅や魚の骨を劫奪りして、そして自分でばッかり夫れを食べて、一向お内儀さんや娘に與れません、剛慾非道なことばかりをしますので、澤山の鼠が内々相談して、機會があッたら一番懲らして遣らうと云ふことになりましたが、何分にもこの忠右衛門は、先祖が黒船忠右衛門方に住んで居たとか云ふので、其の系統を引いて、俠氣はないが力が强いので、誰とて手出しをするものがありません、其處で忠右衛門は益々圖に乘ッて、惡いことばかりをして居りました。

斯ンな風で、お内儀さんや娘を養いません所から、お内儀さんは切々と稼ぎ働いて、自分と娘の食物をこしらへますが、一人で四人分のことをするのですから骨が折れます、水瓶の椽を渡ッたり、桝落しの傍を通ッたり、隨分と危險い場所へ踏み入りますのも、皆ンな其子が可愛いからであります、夫れですから他の鼠も忠右衛門は碌でなしだと云ッて惡く云いますが、このお内儀さんに對ッては惡口一ッ云ふものがない、豪いお内儀さんだと云ッて皆ンな褒めて居りました。

所がこゝに悲しいことが降ッて湧いた、と云ふのは或る晩のこと、お内儀さんは三人の娘にお甘味いものを食べさして遣らうと、平常のやうに臺所へ行ッて、好き獲物はないかと見附けて居りますと、底のない鐵輪の入物に、大福餅が一ッ入れてあるのが目に着きました、コレハ好き物があッた、是れを娘に食べさせて遣ッたら甚麽にか喜ぶことであらうと、神ならぬ身の其の大福餅に手をかけますとガチャーン、はッと思ふ間もなく鐵輪はお月樣を半分にしたやうに兩方から塞まれて、不憫さうにお内儀さんは夫れに挾まれて死んで了ひました、其の鐵輪は虎挾みと云ッて、人間の製作へた恐しい鼠捕りの器械と云ふことを、お内儀さんは知らなかッたのでありました。

さア斯うなると不憫さうなのは死亡なッた、お内儀さんばかりではない、後に遺ッた三人の娘、まだ自分で稼いで食るほどの力がないのですから、母を慕うて泣いてばッかり居りました、三日目に、姉のお吉を殘して二人の妹も亡なりました、夫れても忠右衛門が世話をしませんので、いよ／＼澤山の鼠が激昂り出して、忠右衛門を退治して了はうと云ふことになりました、スルト忠右衛門はこの事を嗅ぎ知ッて、我れ如何に大力なればとて、衆寡敵せず、三十六計逃ぐるに若かずと、不人情にもまだ頑是のない、唯ッた一人の娘お吉を振り捨てゝ、仙代萩の仁木彈正以來、姿を隱すに妙を得た、忍の術で雲隱れ、何所かへ行ッて了ひました。

忠右衛門は斯ンな惡い鼠ですけれど、矢張り親ですからお吉は戀しがッて、他の鼠がモウ打捨ッて了へと云ひますけど肯き入れませんで、殊勝にも順禮となッて父を探しに出ました、さうして行く先々の鼠の世話になッて、ツイぞ一遍玉ちやんや丸ちやん（猫の事）に追ッ驅けられたこともなく、無事に諸家を遍歷して、不圖或る古いお宮に參りますと、お三寶に載せたお供餅に凭れかゝッて眠ッて居る鼠があります、お吉は施行も貰はうし、又ひよッとしてこの鼠が、父の所在を知ッてゞも居たら大變に都合が宜いと思ひまして。

『補陀落や、岸打つ波は、み熊野の、那智の御山に、響く瀧津瀬――』と優しい聲で御詠歌を稱へつゝ、徐々に傍へ寄ッて行て

『遙々こゝに紀三井寺、順禮に御報謝。』

と云ひますと、お供餅に凭れて眠ッて居た鼠はちよいと眼を開いて

『何ンだ喧しい。』と叱りつけて、またスヤ／＼眠らうとします。

お吉は喫驚して後へ飛び退いて、悚へながら能く／＼見ると、この鼠こそ自分が日中も厭はず艱難辛苦して、探し尋ぬる父の忠右衛門であッたので、嬉しいやら悲しいやら

『父さんお吉で御座んす。能うこゝに居てお與れた。』

と突然飛び附いて泣き出しましたので、今度は忠右衛門が驚いて眼を覺して、見るとお吉が順禮姿、是れは何うぢやと抱き締めて、絕て久しき親子の對面、暫しは言葉もありませんでした。

夫れからお吉が種々と忠右衛門を諫めまして、何うか是れからは惡い事をしないで、鼠らしい鼠になつて與れと淚と共に賴みましたので、流石の忠右衛門も孝行な娘の言葉には反くことが出來ません、此時からすッかり心を入れ替へて、大變に正直な鼠になッたと云ふことです。

袋鼠や大鹿や

（動物園の新動物）

上野動物園主任　黒川義太郎

▲袋鼠　オーストラリヤから新來の動物てワラビーと云ふ袋鼠は、大象の傍の檻の中に住むことになりましたが、此袋鼠の尾は長くしてさうして木に寄付けて登る程の力を有つて居ります、平生は尾と後足とで鼎の如くになつて立つて居りますが、後足が長いので五尺位の棚に飛上るのは容易であります、此袋鼠は子を產むと直に腹に附いて居る袋の中に入れて仕舞ひまして、何時子が胎内より放れて袋の中に這入つたか、私共でさへ其時を知ることが出來ません、のみならず十分に子として發育して居らぬ儘を產み落して、袋の中で育てるので、子の出生の時を定むるには、胎内から放れた時で無くて、袋から飛出した時と云ふ方が至當ではないかと思ひます、袋の中には二つの乳がありまして、此乳に依つて育て、やゝ長ずると袋の中からちよいと顏を出して、外を覗き、キョロ／＼して居る處なぞは最も愛嬌があります、六ヶ月位ゐすると獨りで外に飛出しますが、母の方で外出を許可せぬ時は、袋を引締めて容易に出ることを許しませぬ、又子が外に出て遊んで居る時、危害の來る恐れありと認めた時は、母は前足で子を捕へ、袋に入れて走ります、其の母子の情愛の深きことは實に感心なものであります。

▲大鹿とエーテル鹿　大鹿は蒙古產でありまして、日本第一の大鹿であります、角は通常一角三枝のものでありますが、此大鹿は四枝あります、未だ角の生へ立てゞありますから肉色の袋を着て居りますが、袋が脫れたら立派な角となります、蒙古ではバアローと申し、馬鹿と書くさうであります、性質は溫順で、能く人に馴れます、又エーテル鹿一對は獨乙のハンターリンより買入れたので、六十日間の航海に善く耐へて來たのでありますが、二疋とも毛色が銀灰色で、一見すると白鹿のやうで珍らしい。

▲犛牛　西藏產の犛牛が二頭新に獨乙より到着しました、西藏探見家の河口慧海師や寺本婉雅師の話しに能く出る犛牛は則ち是れであつて、西藏の商人が隊を爲し、犛牛を引連れて旅行したり、犛牛の糞を薪に代用すると云ふ奇談の如きも、此犛牛のことであります。

▲黒鳥　是れもオーストラリヤから來たのでありますが、白鳥に對して黒鳥と名を付けたので、全身黒天鵞絨を纒つたやうで、嘴が眞赤でありますから大變に美しい、オーストラリヤのニウゼイランドと云ふ島では、最初一番放した處が非常に繁殖して、此節は島民が困る程になつて居るさうであります。

▲駝鳥　是れも獨乙から二疋來たのであります、駝鳥は善く人に馴れて、番人が室に這入つても害をするやうなことはありません、只金屬製の釦などを啄むで見るくらゐのことであります、善く馴れゝば小兒などを乘せて走ることも出來るかも知れません、羽は飛ぶ役に立ちませんが、足は馬と競爭しても劣らぬ程の强い足を持つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

詞華

▲石川支部の總會に臨まんとて赴けるをり
理事 前公爵夫人　近衛貞子
懐かしき友とかたれは心なき草木さへこそ哀れなりけり
▲旅宿にて
ねよといふ人もなきまて更けわたり河鹿の聲もちかく聞ゆる
▲總會の日雨ふりければ
しめやかに降りくらす雨もなか／＼に心ありけに見ゆる今日かな
國をおもふ心の友とうち寄りて語るもうれし今日のまとゐに
▲癈兵となりたる人々を見て
勇ましきその有樣のしのはれていくさ語りのきかまほしくも
▲遺族の人々を見て
人知れず袖をそしほるかなしくもその行末のことを思いて
▲京都ならひに石川縣へ行く汽車中にて富士を
あさやかに雪またのこる富士の根を見てましものを雲のかゝれる
理事 侯爵夫人　鍋島榮子

▲赤十字社京都支部總會に詠める
みち遠く來たるかひあり場もせに赤き心の人のつとひて
▲京都愛國婦人會に遺族の多く集へるを
我かふるさとに　歸り來て
いのちを君に　さゝけつる
人のやからを　うち集へ
いたはる程こそうれしけれ
殘りたるやからの心いかはかり嬉しくも又かなしかるらむ
▲石川縣兼六公園にて
えにしあるこの金澤の關にきて見る草木ましたしまれつゝ

短文

題「夏の夕」

▲露の白玉　埼玉　水野淑子

一盥の行水に晝の暑さを流し去りて、夕風通ふおばしま近くに一家打ち集ひて涼みする樂しさは、かの貴人が函嶺相濱に暑を避くる心にも劣らざるべし、廣くもあらぬ庭ながら、打水の名殘り涼しう露に濡れたる月見草の、見るまに蕾を破る樣もをかしう、未だ穗に出てぬ薄の風を招くも懷かしう、無くもがなと思ひし杉の森も、梢に月のさし上る景色恰も墨書を見るやうなり、あゝ人は足る事をだに知りて暮せば、苦しき中にも樂みあり、暑さに堪へて業勵みし夕には、粗末なる晩餐も山海の珍味に勝り、そよとの風もいと涼しくて「夕風に亂るゝ露の白玉も我打水の名殘りなり鳬」など微笑まれつ。

▲選者曰　好個の座右銘、再讀の價値あり

▲月と少女　東京　濱田直子

暮れかゝる夏の日を、せき立てるやうな蟬の聲がやう／＼歇むと、西の空には眞紅な雲が湧いて出て、其の美しい彩雲が前の大川に映つて流れて行く、と塒を求る鳥の一群、後になり前になり、向ふの森蔭にかくれて了ふ、すると空は一刷ぼかしたやうな桔梗色やまた薄墨色となつて、軈て一點又一點、銀星が光り出すと、涼しさうな浴衣にお化粧美しき少女の、其方此方から青葉を渡る夕風と共に橋の上に集つて、種々の物語りに餘念のない折柄、向ふの山際一層明るくなつて、其處から眞ン圓なお月樣が、今晩はと云ふ樣なお顔をなすつて涼みにゐらしッた。

▲選者曰　月と少女の對照を取るべし

▲雨後　大阪　富永才子

潑墨天を掩ひて紫電幾閃、さしも凄じかりし雷鳴も、烈しかりし夕立も、拭ふが如くはれ渡りて、空には虹の影美しく、軒には風鈴の音高し、軈てゆあみを終へて庭前に出づれば、雨後の青苔滑らかに、颯と吹きくる一陣の淸風樹梢の重露を玉と亂しつ、そゞろに連日の苦熱をも忘るゝ計り、涼氣つきせぬ黃昏の風を双の袂に孕ませつゝ、天水に淸められたる飛石傳ひ、或は燈籠に火を點じ、或は窓近う夕顔の鉢を運びなどして、月を待つ樂しさ、春の宵ならねども又千金の値あり。

▲選者曰　この文また千金の價値あり

▲さゝやき　埼玉　森田竹子

終日定めの業なし終へて、懐かしき文机に寄る心地よさ、書綴きたれど見る人もあらず、總て机上に俯伏しぬ、ふと誰やらん囁く聲の聞ゆるに耳欹つれば「やよ風の君、今宵しも妾が葉末に置く白露に消けき月の影なも宿すべう、かまへて／＼荒くな吹き給ひぞ」と青葉の云へば「諾！、君の願望とならばなぞ吾強くは吹くべき、唯此處に眠れる人の面にかゝるほつれ毛の僅に動かん程に止めむ」と風いふ、青葉嬉しげに猶ほ何をか囁くを聞かんとする折しも「姉上湯浴し給へ、殘れるは君のみぞ、や、や」と妹の吾身を揺り動かすに目覺むれば、早一つ二つ出て來し藪蚊の頰を掠めて。

▲選者曰　ほつれ毛の僅に動かん丈にが命也

▲涼味滿身　福島　横川千賀子

山の端に夕日かくろゝ、黃昏は、暮れ行く一日の名殘りとて、鐘の音、鳥の聲、見るもの聞くもの何れもあはれに、門の戸とざゝまほしうも思はるゝに、夏來れば暮るゝをのみぞ待たれぬる、日は落ちて程もなきに星の輝き、螢の光り、露に洗はれし草を褥に蛙の居すはりたる、いざよふ雲の影うつす流れの邊り、彼方の森のくつきりと黑く、宛ら墨繪のやうなる、何れか美しからざるなく、何れか涼しき心地のせられざるはなし、樂しみ多きは夏の夕べなるかな。

▲選者曰　綺麗式とや云はまし

新田暉子

▲早瀬の浪　山形　阿部さゐ子

田の草取り居たりし農夫等を驚かしゝ夕立も、今は名殘りなう晴れ渡りて、心もおのづとすが／＼しうなりければ、兄君姉上をそゝのかし參らせ、また年行かぬ甥姪と共に最上川のほとりに遊びぬ、小供等のあどけなき言葉に笑まひつゝ、兩羽橋の袂に至れば、そよ／＼と吹きくる風肌に涼しく、今し山の端をはなれし月は最上川の早瀬にかゝり、黃金白銀の浪をたゞよはす、み空の星とまがふ螢の三つ四つ飛びかふ樣あかずめでたし、晝の暑さはまたく忘れはてゝ、いといと去りがたう覺へしか。

▲選者曰　作者は故郷の風物を寫すことに長ぜり

▲白蓮　上海　井手とし子

昨日今日の暑さ、土さへ裂くる心地したるも實に道理にこそ、今日は葉月の半ばにぞありける、夕べ蓮池に至り見れば、白き蓮三つ四つ人待ち顔に咲き笑める樣床しとも床し、葉の上の露、風毎にまろび合ひては大なる玉となり、あるは碎けて小さく亂るゝなど、見飽かぬほどに晝の暑さも忘れ果てゝ四季の中にても夏のみこそよけれなど思ひなされぬ。

▲選者曰　今一層の奮勵を望む

新詩

小按摩

岡山　寺松政子

やよ其處なるぞ小按摩よ
　肩と肝とのそのあわひ
心してとれこゝちよや
　軈てゆるばんこゝりし肉
アイと答へて小按摩は
　仰ぐも伏すも色見へぬ
眼をはり肩を動かして
　かよはき指に力をこめ
見ぬ世の秋を偲ぶかや
　時々微笑を漏らすめり

これも人の子汝が身は
　過去いかなる赤縄にて
盲人とこそは生れしか
　春夏秋冬をり／＼の
眺めは人のものなるを
　他にのみ見る憐れさよ
斯ても汝がこゝろには
　樂みありやそは如何に
小按摩ホヽと打笑みて
　語り出てけり次のごと

闇より出て闇に入りし
　吾身になどて色あらん
色なき世には慾もなし
　月日の光りかゞやくと
聞けども吾に月日なく
　素よりかゝる雲もなし
けがれ多しと人に聞く
　浮世の塵のかゝらねは
眞如の月の澄みわたり
　曇らぬ身こそ幸福多き

▲選者曰　詩聖また此人を得たるを喜ぶ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○玉さゝの葉末の露のみたるゝも見えてすゝしき夏の夜の月　大阪　富永才子

○暮れぬより風まつ窓の若竹のよそめすゝしき夏の夜の月　群馬　木暮千代子

○遣り水に影をなかして一しほのすゝしさそふる夏の夜の月　函館　神尾登女子

○天の川水まさるらし月影のなかれてはやき夏の夜の月　靜岡　竹内幸子

○やり水の淸きなかれに影見えて光すゝしき夏の夜の月　函館　龍岡とし子

○夕立のなこりの露の玉笹にきらめく月の影そすゝしき　山口　末田竹子

○夕風の庭のむら竹ふきわけて折ふしもらす月そすゝしき　岡山　山本種子

○鳴神の音もはるかに夕立のあとさりけなき月の影かな　岡山　武田須磨子

○臺の間の暑さ流るゝやり水に光すゝしくやとる月影　京都　難波眞久子

○よろ波の數さへ見えてすむ月の夏をよそなる川つらのやと　山口　荒瀨千勢子

○水鶏なく小川の瀨々に影ゆりてすゝしくやとる夏の夜の月　東京　瓜生保子

○涼みする小舟も見えてあら川の水面を照らす夏の夜の月　埼玉　森田竹子

○よる波に影はくたけて須磨の浦すゝしさまさる夏の夜の月　山形　阿部さゐ子

○夕風に若葉青葉のかけゆれてすゝしく照す夏の夜の月　東京　濱田直子

○雨すきし高根の松の梢よりすゝしく出る夏の夜の月　青森　田島正子

○なり〳〵は星もなかれて天の川涼しく見ゆる夏の夜の月　福島　横川かれ子

○若緑しけりあひたる木の間よりさやかに匂ふ夏の夜の月　三重　小島駒子

○はら〳〵と閨の若竹露しけみ夢さそめし夏の夜の月　東京　鈴木芳枝子

○臺の間の暑さ忘るゝほともなく出れは明る短夜の月　山口　末田貞節子

○ゆあみして風まつかけのつり網にかゝるもすゝし夏の夜の月　北海道　四久子

○涼しさに閨へも入らすまとゐしてうちかたらへる夏の夜の月　岡山　仲田磯子

○松風の聲はかりして三保の浦なみしつかなる夏の夜の月　靜岡　淸水はつ子

○山の端をすゝしく出る夏の夜の月の光そいともさやけき　石川　新田暉子

○蓮の葉の露の眞玉のかす〳〵にしはしやとれる夏の夜の月　東京　鈴木菊子

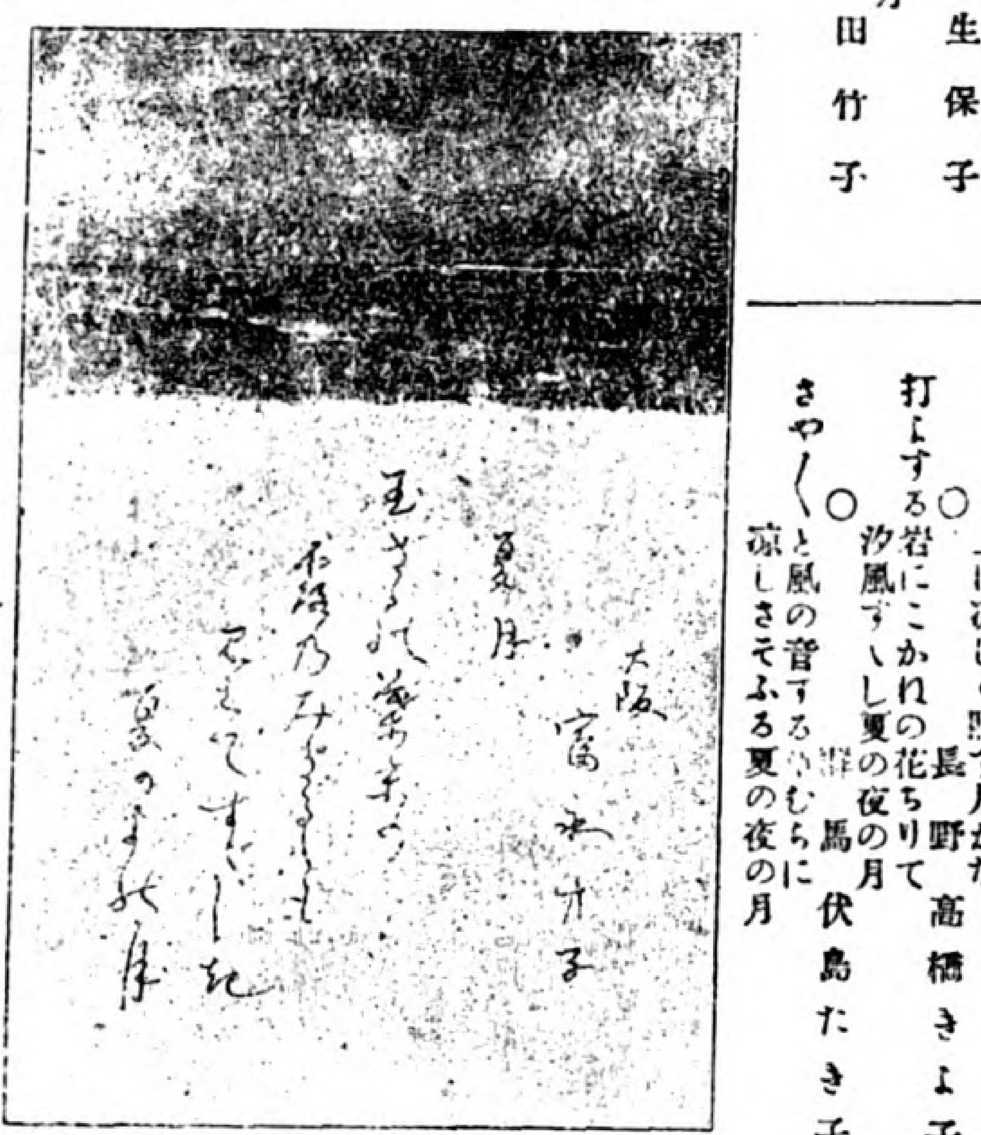
○池に照る今宵の月を霜と見て臺の暑さも忘れつるかな　上海　井手とし子

○夕立のあとなく晴れて大そらに涼しくすめるなつの夜の月　京都　金澤收子

○雨はれて雫したゝる夏草の上に涼しく照す月かな　兵庫　宇野類子

○打よする岩にこかれの花ちりて汐風すゝし夏の夜の月　長野　高橋きよ子

○さや〳〵と風の音するくさむらに涼しさそふる夏の夜の月　群馬　伏島たき子



富永才子書井蹟

○築山の松より出て池水にうつるも涼し夏の夜の月　靜岡　星見雄子

○夕立の雲はあらしにすきさりて木の間を洩るゝ夏の夜の月　神戸　鹿島節子

○浮雲はあとなく晴れて池水に涼しくすめる夏の夜の月　愛知　平松いと子

○むらさめのすき行くあとの川風にころも手すゝし夏の夜の月　福島　中村ます子

○夏草のしける葉こみに露おきてやとれる月の影そすゝしき　茨城　福田喜代子

○月影もきよみか崎の夏の夜に富士の雪さへ見えて涼しき　愛知　川口鐘子

○山里は蚊やりの烟たてこめて夏もおほろの月を見る哉　岡山　谷とめ子

○ゆあみしておはしま近くさしよれはひとしほ涼し夏の夜の月　青森　佐藤楓子

○淺芽原霜夜もかくと見ゆるまて露にこりなき夏の夜の月　福山　寺松政子

第卅二回作歌募集
題　蚊遣
選者　大口鯛二氏
規定　繪葉書に認める事
優等の作歌は八月五日發行本紙上にて披露すべし

第廿五回短文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十行以下
優等の作は八月五日發行の本紙上にて披露すべし

第三十回俳句募集
題　朝顔
選者　編輯局同人
規定　繪葉書に認める事
優等の句は八月五日發行の本紙上にて披露すべし

第六回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの
優等の作は八月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切七月二十日限り

○夕されは稲葉のひまを洩れ出るひかり涼しき夏の夜の月　岡山　貝原壽惠子

○夕まくれ庭のやり水きえぬまに木の間もれ出る夏の夜の月　兵庫　下岡松枝子

○暮るかと思へはふくる夏の夜はさやけき月を見る夜すくなし　靜岡　萩原さた子

○夕すゝみ扇ならすもうるさけれ青葉もれくる夏の夜の月　青森　留目歌子

○新らしくかへしたゝみに小簾こしの影そすゝしき夏の夜の月　愛知　市橋幾子

○小簾卷て居らるへきかは涼しくもねやにさし入る夏の夜の月　神戸　乾榮子

○ふくるまて見はてぬ月の中空にはや明けにける短夜の月　靜岡　青木絹子

○夕まくれ早稲田のほとりさまよへは淸けくにほふ夏の夜の月　岡山　横川町子

○はしゐしてうめる暑さの夕まくれすゝしく出る山の端の月　青森　鈴木安子

○小簾越に見えてすゝしき月影の今宵は空に雲なかりけり　京都　淸水今子

○吹く風にさゝなみよする河水に涼しき月のひかりきらめく　三重　諸戸常子

○夏の夜は花と見るかな荒磯の波にくたくるちよろつの月　新潟　青木美家子

○手にもちし扇もとみに忘れけりあまり涼しき月のひかりに　東京　長瀨錠子

○夕されは庭の草葉の露の上に影たに淡き夏の夜の月　兵庫　淸原千代子

○浪風も靜けき海にいくさ船やはらき照らす夏の夜の月　吳　竹入男子

○いなむしろ蚊遣に涼むかそいろのやさしき笑顔照すさやけさ　青森　吉田梅子

○夏の夜の涼しきものは波の上に浮へる月の影かとそ見し　東京　小島幹子

○村雨の雲をさまりし夕まくれさやけくのほる七夕の月　東京　小松悦子

○風に見え枝にかくれて夕月夜若葉もれくる影の涼しさ　若松　永山喜代子

○吹風に蓮の浮き葉の露ちりてくたくる月の影そすゝしき　埼玉　水野淑子

○夕風の吹きそめしたにうれしきにさやけき月のあらはれにけり　京都　渡邊豐子

○空高く音こそきかれ涼しきは月の桂に風や吹くらん　兵庫　中村益子

○また宵のうたゝれなからいつしかつきかけ淡きあかつきの空　京都　磯谷澤子

○夕風に池の浮草かたよりてたゝよふ月の影のすゝしさ　愛知　山田經子

○ゆあみしてしはしやすらふ庭の面に涼しき月の影を見るかな　京都　渡邊時子

天　明けやすき七日の星の逢瀨かな　三重　山内勢以子

地　七夕や限りある夜のくもり勝　熊本　齊藤さき子

人　星まつる十戸の村や酒莚　東京　川村誠子

賑やかに夜の更け行くや星祭　東京　鈴木芳枝子
七夕や待しむかしの忍ばるゝ　愛知　市橋幾子
七夕や硯の海も今日かはく　廣島　小田八重子
あの空に七夕樣のゐますとは　東京　山口千代子
秋の空今宵めでたや星まつり　岡山　仲田磯子
星まつりいくさ話しに涙かな　德島　濱津みれ子
七夕やつもる噺の更くるまで　廣島　小田信子
天の川星合ふ岸はいつこなる　京都　渡邊よれ子
歸省せば今日は七月七日なり　東京　黒川順子
妹に七夕のうた書かせけり　群馬　伏島たき子
七夕や芋の露とるわらべかな　埼玉　森田竹子
七夕や恨みのこして明にけり　京都　磯谷澤子
いつ方もおなし心や星まつり　神戸　宇野類子
七夕や五紙の糸のうつる池　三重　辻司種子

銷夏號發刊

吾が『愛國婦人』は來る八月二十日發行第百拾號を以て銷夏號となし、左の規定に依つて諸姉の投稿を滿載いたす可く候

文學士　下田次郎氏選
一　夏の教訓
人は春夏秋冬自然の感化を受けずして居らるゝものにあらず、夏は果して如何なる教訓なるか、諸姉の感想を承りたし

ドクトル　川瀨元九郎氏　糸左近氏　合選
一　夏の簡易なる小兒寢衣
衞生的小兒の寢衣としてはドンナものが一番適當なるや、諸姉の考案を提出されたし

武田櫻桃氏　三島霜川氏　江戸靜川氏　合選
一　短篇小說
家庭的、または心靈的のものなれば文體はドンナでもよし、一行十八字詰百二十行以下にして總ふりかなを附けられたし

高島平三郎氏選
一　小兒の夏の暮し方
永い夏の日に、學校も幼稚園もなく、困るは子供の夏の暮らし方なり、さりとて眠てばかりも居られず、どう暮らすが一番良きか實驗又は考案を寄せられたし

有島幸子刀自選
一　半ケ年の家計
明治三十九年の半は過ぎた、主婦はこの半ケ年の家計をドンナに處理されたか、豫算と決算とを對照して聞かされたし

右投稿はいづれも七月三十日限り固く締切り申し候
尚當選の諸姉に對しては聊かながら御報酬呈上仕まつる可く候

投稿を募る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無師獨奏 紙腔琴

船來 手風琴

船來 バイオリン

◎配用曲譜二百五十餘種出來
◎定價◎大形上製金十五圓◎同中製金九圓七十五錢◎小形金五圓

定價三圓卅錢三圓五十錢四圓五圓七圓六圓八圓十圓

各種新着◎◎

西洋（ハーモニカ）横笛

◎定價金卅五錢四十錢五十錢六十錢七十五錢一圓一圓十錢一圓廿五錢以上

西川製風琴

◎大聲蓄音器定價廿五圓卅圓三圓五十五圓六十五圓
◎平圓盤發音器定價金卅七圓金五十三圓金八十圓

教育的 高等玩具 新荷着

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

五日より十五日迄 中元賣出し

神田

粗景進呈

中元御進物用品新案物澤山出來仕候

神田表神保町壹番地
電話本局 二八五三
出店 新橋博品館階上

煉香油 パール

歐米化粧品輸入商
東京濱町一 電浪一一一〇
平尾分店
香油ゴールドオイル發賣元

佛國パリー直輸入
ピンク白粉
芳香頗ル高評
輸入元 東京市日本橋區小傳馬上町 倉田山海堂

女子教育
編輯主任 文學士 下田次郎氏
第參巻第七號 七月一日發行 定價拾錢

本邦婦人雜誌中最も程度高く歐米最近の婦人に關する論說を紹介し最も讀み答へあるもの

發行所 東京市神田區錦町一丁目 明治書院

消化新藥

工學博士高峰讓吉氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる
摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意
本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す
東京市南茅場町二番地

三共商店藥品部

世界のしんぶん

▲**四つ目の魚** 此種中央アメリカ洲ガテマラ國に發見せられたり一對の目は水面より上のものを見る事を司り他の一對は水面下の物を見る樣になり居りて同時に兩方を（空中と水中と）見る事を得る仕掛なりといふ

▲**海中の黑猫島** は南米エクアドアル國の海岸に近きトヤタム島にして猫の住する事頗る多く其毛色は悉く黑色なり此の猫は島上熔岩石の割目の中に住み鼠を取らず專ら魚類及蟹類を食とするなりと

▲**輕き鞍** 世界一と稱せらるゝものは競馬師アーチヤーといふ人の所有にかかり全體の重さ百二十匁に過ぎずといふ作られたるは英國ロンドン府にして豚の皮を厚さ一分位に硝子にて削り取りたるものなり頗る精巧にして堅牢なるものなり價五百金なりとぞ

▲**二年間の休暇** 米國ミヅリー州フオレストシチーにあるパーリントン鐵道會社の役員ホペイといふ人は一日も缺勤なく四十年間勤めたる爲め此程二ケ年間の休暇を得たりといふ此間給料は全額を受く筈なりといふ

▲**新廣告法** 英國の某商店にては顧客を集めんが爲めに白紙に赤インキを以て左の意味の廣告を書きたるものを店頭に貼り出したるに果して客人は店前に群集して繁昌を極めたりといふ即ち「當店にては實際製造費よりも安き正札をつけたる名物十二個を陳列したり發見したる人には正札の値段にて賣渡すべし」の意味なりとぞ

▲**女理髪師** はオーストリヤにては一定の試驗を受けて許可を得たる後開業する筈なるが同國にては此種類の理髪師年々増加しつゝありと

▲**大食鳥** 印度のアヂユータントといふ鶴の類の鳥は背は高くして五尺に達し翼を張る時は十五尺に及ぶ此鳥頗る大食にして兎又は猫を丸呑にすといふ

▲**握手反對同盟會** なるものポルトガル國首府リスボンに規定せられたり規約によれば會員にして握手する時は一圓の罰金を取らるゝ筈にて此罰金は貯蓄し置きて政府の富籤を買ひ所得は規約を守りたる會員に分つ定なりといふ

▲**珍奇の銹ピン** は英國リヴアープール市の某の佩用しつゝあるものにて一個の人間の眼球の化石せるものの黄金の樞の内に嵌められあるものにて此の球は此人多くの學者と共に南米ピルー國に探險せし時發見せるなりとぞ

▲**魚卵の數** は夥しきものなり即「ひらめ」は一季に卵子七百万個其他の魚にても百万乃至三百万個の卵子を産するといふ此の事實よりして考ふれば魚の盡きぬに不思議はなし

▲**世界一の高價の樹木** はつまらぬ一本の木にしてロンドンのシチー（シチーと稱するは同市の内最繁華なる場所一體の名なり）の某所に植へつけたるものなり此の木の占むる場處は一ケ年の地代二千五百圓にして既に植へてより三十年を經過せし故今日の價格は約七万五千圓なりといふ

▲**最緻密の寒暖計** は北米合衆國ジョンスホプキンス大學（全國第一の科學專門の大學）にて使用せるものなり其價二万圓にして頗る完全のものなるが硝子管に刻み附けたる度數は微細なるものにて明瞭に是を見るには顯微鏡を用ふるといふ

東京帝國大學文科大學講師 佐々木信綱君選
三宅克己君
一條成美君 畫

歌集 あけぼの

現今の歌壇に清新の歌風を唱道して夙に其覇を爲せる竹柏會の俊秀が近作を佐々木氏の精選せられしもの、この曙の一巻なり。收むる所短歌數百首新體詩十數篇。之れを作れるは川田順、石榑千亦、印東昌綱、大塚楠緒子、片山廣子、橘糸重子等十二人の才子才媛とす。或は戀愛を歌ひて艶麗なる、或は自然を詠じて平淡なる、或は悲哀の情をよせて沈痛なる或は幽遠なる思想を托して含蓄の深き、とり〲に其特色を發揮し、讀者をして例へば美はしき曙の野邊にさまよい入るの思あらしむ、詩歌に志す人の好模範、憂ある人の慰藉者、或は旅中の友として綠蔭必讀の好詩集なり。

クロース製美本 正價金五拾五錢 郵稅金八錢

發行所 東京神田區錦町壹丁目 修文館
發賣所 大阪市南區鰻谷中の丁 ◎東京中西屋◎東京堂◎文榮閣◎文林堂◎

女子技藝夏季講習會會員募集

來八月五日より廿四日迄東京市牛込區西五軒町朝日倶樂部に於て左の科目の講習會を開く

●水彩畫 佛國新歸朝畫伯 大下藤次郎
●圖案 東京女子師範學校敎諭 岡吉壽
●黑板圖畫 前東京高等師範訓導 松田茂
●密針裁縫 シンガー商會技師
●科外講莚 芳賀博士以下十數大家
●會費一科目壹圓 ●入會申込七月廿五日限 ●宿舍一日實費二十錢以内良好の場所周旋 ●照會返信料付 ●機械貸與證明書授與 ●詳細規則郵券二錢封入

牛込西五軒町十二番地 事務所

●二十世紀の婦人諸君に告ぐ！

實地活用 柔術極意

通信教授 速成會員 募集 本會が永年苦心慘憺の結果案出したる方法に依り三週間にて達人となるを保證す

●規則書郵券二錢送れ 東京市下谷區龍泉寺町

帝國尚武會

新もよう ゆかた地手書染

[illegible]

日本橋區[illegible] 玉川屋 [illegible] 五八八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◉三井家の慈善事業　三井家に於ては一大慈善病院設立の計畫あり岡田土肥兩博士等專ら其の相談に與かりしが今回愈々金百萬圓を出資して獨力之を創設する事とし二十萬圓を創立費と爲し殘る八十萬圓の利子を年々經常費として支出し百人の病床を設くるに決しその經營方法等は一切之を東京醫科大學に一任したり同大學にては患者は事情に依りては學用に使用するも差支へなき條件の下に之を引受くる事と爲り目下其敷地の撰定中なるが既に社團法人とし其筋へ屆出を爲したり

◉女子富士登山會　女子教育家千葉秀胤氏は今回同氏知人の小學校女學校教員並に夫人令孃等よりの依賴により富士登山の計畫中なるが登山順路は甲州街道より吉田に至る小佛隧道、猿橋、大月、谷村等を過ぎ羅野より森林帶を經て登山一泊、日の出を見て歸途に就き須走より御殿場に下り東海道線にて足柄隧道、湘南海岸を經て歸京すべく行程は滿三日の見積りにて八月中旬天氣快晴の日を見て登山すべし又た參加者は主として女性教育家及夫人等何れも家長の承諾ある者に限るとの事なり

◉女子大學卒業生　女子高等教育の議論八釜しき今日に當り同大學の卒業生が卒業後の方針如何を知るも多少の興味なきに非るべし同大學校卒業生は今日まで三百八十六名あり其中

一、主婦となりたるもの(結婚せしもの)……百四十八人
二、社會教育に從事するもの(工場其他に教員たるもの)……五人
三、教育に從事するもの……六十一人
四、同校内設備の實業部に從事するもの……十九人
五、同校内櫻楓會刊行の雜誌の編輯に從事する者……七人
六、修學を繼續せるもの……三十四人
七、家庭補助者……百二十人
八、死亡者……二人

とあり

◉高野山の女人禁制廢止　紀州高野は祖師開山以來今日に至る迄約七百餘年間肉食及び女人の常住を禁じ特に地方長官の認可を得て右の山規を制定し在山僧俗の行動を取締りつゝありしが右の如き禁制は現時社會の風潮と相容れざるに依り一般僧俗に對しこれを遵奉せしむる事至難にして目下の允許巡査位の取締にては到底これが勵行を見る事覺束なく或ひは其の反動として却て不都合の結果を呈せしことも屢々あり爲に今回同派の管長密門宥範師一大英斷を下し右山規の全廢を決意しこの程在山の一寺住職の僧侶は勿論町家の主人等を同山金剛峰寺に招集し告ぐるに山規の保存勵行は世の風潮と容れられざる理由を述べ今これを全廢せんとす去りながら如何に世の變遷とは言へ祖師開宗一千百年の今日に至り自分在住の時代に於て祖師の掟を全廢せん事誠に忍び能はざる處なれば諸子に於ても自分の衷心を察しこれを廢したる後はこれを廢せざる以前より一層深く祖師の德を顧み愼重の注意を以て本山の威信を保持し永く信徒の信仰を失墜せざらしめんことを望む云々と述べ同意を求めたりといふ

◉滿韓巡航船　東京朝日新聞社は汽船ろせつた丸を艤裝し七月廿五日より約一ヶ月間滿韓巡航の目的を以て男女を問はず廣く會員を募集し旅行會を催せり此企を發表せし後僅か一週間に四百名の申込者を受けたれば豫定の計畫通り進行し愈々七月廿五日出發する筈なりといふ

◉讀賣新聞の催し　近來各新聞社が競ふて婦人の讀者を得んとするにつとめつゝある事實は同業者間の評判なるが讀賣新聞は數年來當發行所の用ゐ來りし處の家計の現況を廣く公衆より募集せり其方法の新なる點は一ヶ月の消費額を定め之を適當に分配せしものには相當の賞金を與ふるの仕組みなり

◉女子に適したる職業　万朝報の取調たる處と記者の取調たる處とを折衷したるもの左に

△印刷局の女役人　役所に於て役員として女子を採用したるは印刷局にして得能印刷局長は親の時代よりして女子を使用し來りたりと云ふ今日に於ても最も多く婦人を使用せる官廳は印刷局なり仕事は數々あり計算記等は素より印刷物の數量を數へる等各々其任務に適したる仕事を與ふ給料は十圓以上二十五圓位ひの間にして暑中を除くの外執務時間は朝の七時より午後の五時までなり有夫の婦も採用せり

△呉服店の店員　三越呉服店に於て始めて採用せり最初の間は現角の評あり婦人相手の商店に婦人を用ゐるは不可なりとの說もありしが今日に至るまで多くの婦人を使用し居り小物賣場掛仕立員檢查掛出納掛計算掛地方郵便掛電話掛等に用ゐ教育は小學校以上の卒業程度にて年齡は十六歲以上給料は最初三十五錢勤務時間は十時間なり

△電話交換局　官廳の中で第二に婦人を使用し始めたるは電話交換局の交換手なり他の事業の總ては男子が其職を執るに適當なりとするも交換手計りは女子の方が男子に勝れ否な寧ろ女子でなくてはならぬ程のものなり格別なる教育なくとも只音聲の善きと機敏なるものなれば採用せらるゝなり年齡は十三歲以上二十三歲以下の女子にして其人なきものを要件とせり最初見習練習期三ヶ月なり平均給料日給は廿七錢內外なり

各新聞の論說

此一欄に採取する處を一覽すれば社會の新らしき思潮を知る事を得可し

時事新報

△英國艦隊の歡迎
△奇怪なる遊郭の運動(名古屋市件)
△利權回收運動の原因(南清地方の米國排斥運動)
△斷然たる處分を要す(韓國暴徒の關係者)
△行政裁判所の位置(位置の獨立と組織改良方法)
△博覽會の用意(万國とするか內國とするか)
△不良寄宿の取締(家庭に於ける監督の選擇)

東京每日新聞

△自殺者增加の問題(自殺者の救濟方法及其經過)
△英露の國交(英露協商の前途如何)
△暗雲擾々たり(金城の光明醜類に包圍せらる)
△狹量なる獨乙(日本學術研究家の爲め門戶鎖閉)
△恩威兩立の必要(對韓政策を論せり)

日本

△財政と企業界(財政計畫の未確定なるを責む)
△積極的方針(政府自ら事業に手を下すを不可とす)
△伊藤式政治(外觀壯にして實情に遠かる)
△家庭淸醇と情愛(母子の愛情は天然なり制可からず)
△滿洲鐵道會社(滿洲駐營の骨子たるか)

國民新聞

△露國と復讐(露國司令官日本に復讐せんと公言す)
△資本と勞働者(何故社會的困難問題生せざるか)
△國利と營利(西園寺總裁の演說)

讀賣新聞

△歐洲に於ける國備縮少の傾勢
△博覽會の規模(是非万國博覽會とせよ)
△學生の滿韓旅行(御用船便乘)
△華族の家庭(醜聞の露出を責む)
△女學生の德育(女學生に對する復古主義)

万朝報

△東海道線の料金增收(二枚切符制の廢止を論ず)
△英國の教育法案(英國議會の死活問題)
△三電車合同協議(三錢均一制の維持を論ず)
△布哇行移民の危機(眼病の爲め上陸拒絕問題)

◉日本家庭辭書の出版　西山惣治氏の多年苦心に成れる日本家庭辭書は目下印刷中にして京橋區弘道館より近々發行すべしと、同書は四六判八百頁內外にして井上(哲)井上(圓)元良博士下田歌子等の諸氏序し中村不折の三色寫眞版を挿畫すと我が家庭辭書としては殆んど間然するところなかる可し

廣告

中元暑中御進物適當瓶詰
一升入　四合入　貳合入

夏季は純良なる法を撰ばざるべからず
發賣元
日本橋區てりふり町通り堀江町四番地
高橋支店
(電話浪花一五六一番)

七月一日より
中元大賣出し仕候
よせ切見切反物陳列有之候
松屋呉服店
牛山武兵衛
電話本局六〇八　七一〇六

日本橫濱市
金丸銃砲店
振替貯金口座四七三番加入
正價表及願書掛込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新式精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候
正價表は御一報次第郵呈仕候
振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても橫濱本店にて實價買取同一の便法あり
詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

首送りにあるペーパはられてす
水でぬらせばよくはがれます

ムスク香水は全國到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

ムスク香水五週年紀念
化粧の栞　無代進呈
(進呈期限は本年七月三十日まで)
ムスク香水も本年は目出度五週年を迎ひ候に付紀念として中瓶(六十五錢)御買求め首振りペーパをはがして本舖へ御持參又は郵券二錢御添ひ御送り被下候方へは化粧の栞と申御婦人方に最も御利益なるほんを壹冊進呈します
本書は菊中截口繪五葉付紙數四十ページよりなる美術的小冊子なり其目次△化粧の順序△白粉の塗け方△紅の付け方△眉の引様△毛生際と顏△化粧と水の撰擇△水の温度△其他化粧品目(大瓶壹圓　中瓶六拾五錢　小瓶廿五錢)
本舖　東京日本橋區本石町四丁目　松澤常吉

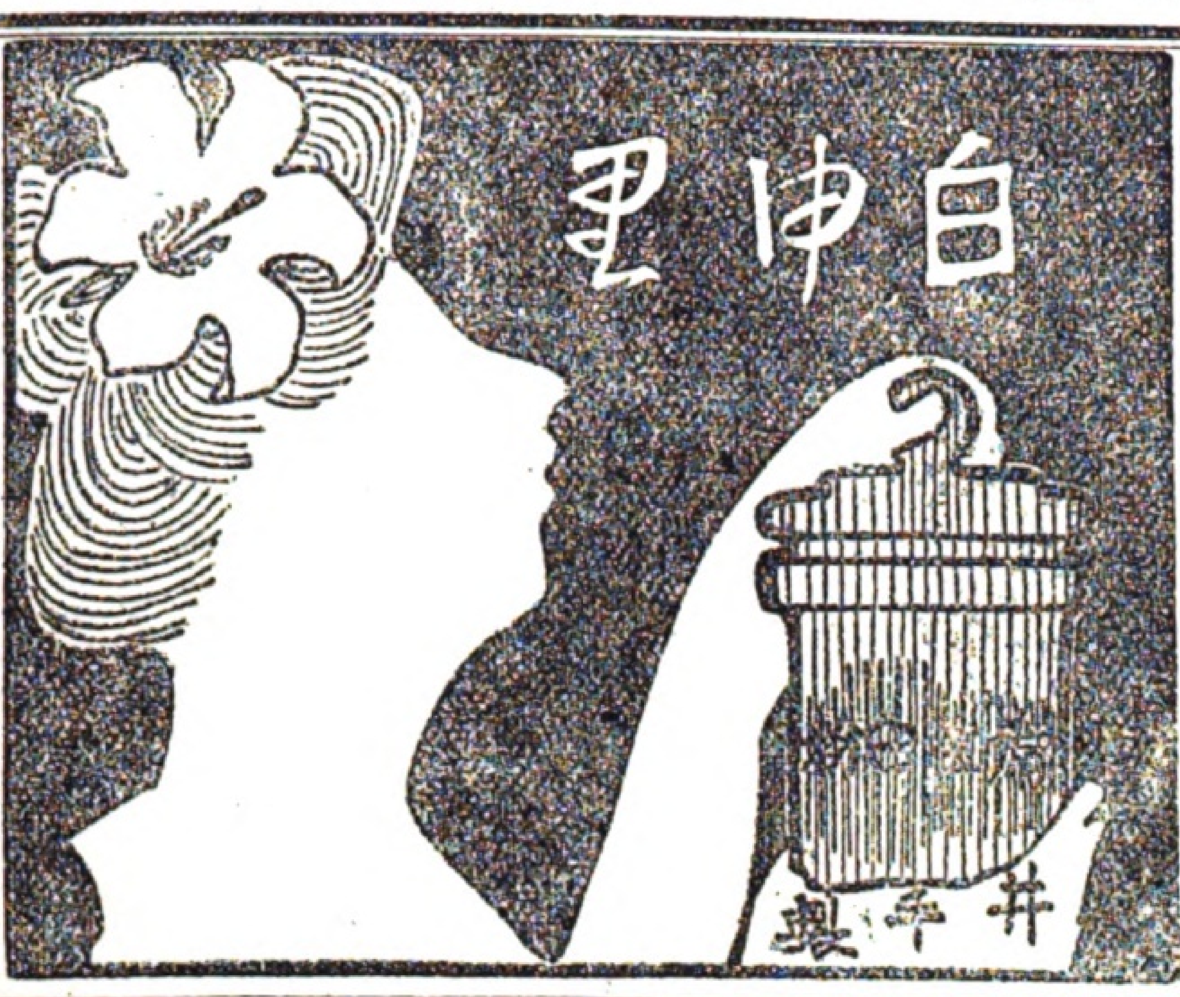
女學通信教授
◉本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として會務を統監す
◉小學卒業後進んで高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會の通信教授に依て家庭に居ながら必須の學科を修められよ
◉本會發行の講義錄は高等女學校の科目よりも一層多數の諸學科を網羅し第一流の名家を撰びて講義を囑託せるものなり
◉本會は高等簡易の兩科を設け女子素養の程度に應ぜしむ月謝は高等科四拾錢簡易科二十錢とす目下入會に都合よし會則は葉書か電話にて請求あれ(電話番町一三二〇)
東京市麴町區下二番町三七　大日本女學會

登錄商標
羽おり紐　華しな
市内ハ御用向ニ節ニ一報ニテ御伺仕候
東京よし町　佐竹組糸舖
定價表ハ御申越次第早速呈送仕候

日本橋人形町通り葺屋町四
電話浪花　一二七〇番

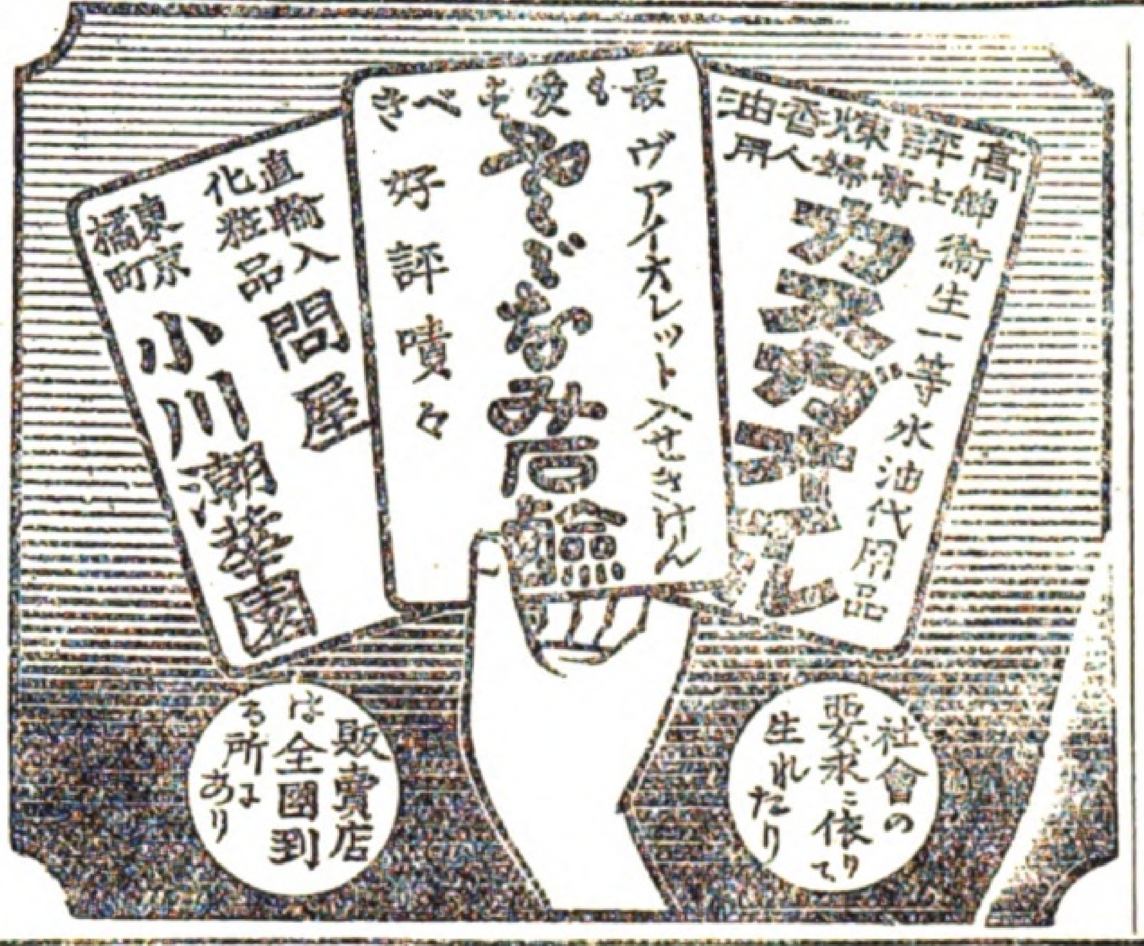
ケーバ香水
●小瓶廿五錢
●大瓶壹圓

◎賣捌所は到る所にあり御買上りを乞ふ



白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる
白ゆり白粉に梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

好評第三版
歩兵中尉櫻井忠溫氏著
肉彈
洋裝美本
一冊　金七拾錢
發賣元　麹町區三番町　英文新誌社



專賣特許
英字どめ
Morlds
東髮の時季
東髮田保留中英字留の右に出づるものなく留方の自由にして總ての點に於ても愛用諸孃の賞讃高し

御料御園白粉
長き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛 高貴御化粧料
御料御園白粉　そのおしろい
◎ねり製　御園の雪
◎水製　御園の月
◎粉製　御園の花
◎クリーム　御園のつぼみ
◎化粧水　御園の露
◎打白粉　御園なでしこ
◎濃厚化粧水　四季の花
製造元　東京芝　胡蝶園
發賣元　東京市日本橋區橋町四丁目　特電浪花四四八番　丸見屋

神戸地方裁判所長判事從六位　田丸稅稔序
辯護士　鈴木丈之助講述
醫師法正解
附重要法規
價金貳拾五錢
郵送料四錢

◎醫師法は今回新たに發布せられ來る十月一日より施行せらるゝ法典にして醫家諸君は宜しく熟讀暗記を要すべきものなり
◎本書は解釋正當理論明晰にして一讀本法の眞髓を知得するに足る加之必要諸法規を添附して其便且つ利なる營へば囊底の物を探るが如し乞ふ幸に購讀せられんことを

△△醫家衛生家必需の重要法規分冊發賣▽▽
◎齒科醫師法　賣價金貳錢
◎醫術開業試驗規則　賣價金參錢
◎死亡診斷書死體檢案書並死産證書死體檢案書記載事項の件　賣價金貳錢
◎傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則　賣價金貳錢
◎傳染病豫防法。同法施行規則。同法ニ據ル清潔方法消毒方法　合册賣價金拾錢
◎産婆規則。産婆試驗規則。産婆名簿登錄規則　合册賣價金四錢
上記分册の郵送料は各壹册に付貳錢宛數册取纏御入用の節は定價の合計高拾五錢每に貳錢宛を申受候
發賣所　神戸市元町通五丁目　日東館書林
郵税振替貯金口座第七七三號
賣捌所　東海堂、上田屋、盛文館、其他各書店

北米合衆國紐育市
シンガー裁縫機械會社
東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店　長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シャツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン裁門の裁縫を敎授の爲に東京、大阪、横濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を參觀せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン專門裁縫夏期講習會
開期八月一日ヨリ一ヶ月間
(規則書進呈、郵劵封入御申込アレ)
東京麹町區有樂町三丁目壹番地　シンガーミシン裁縫女學校
大阪東區北濱二丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

◎會員大募集
目下入會の最好機なり

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに「女學講義錄」を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ヶ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

新學期開始
大日本淑女學會
高等女學校程度の講義錄發行

▲中央新聞評
▲每日新聞評
▲二六新聞評
▲日々新聞評
▲都新聞評
▲報知新聞評
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

批評一斑
講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

▲本會規則書▼
端書にて申込あれば直に郵送す可し
◎東京神田南甲賀町　大日本淑女學會
電話本局三千四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

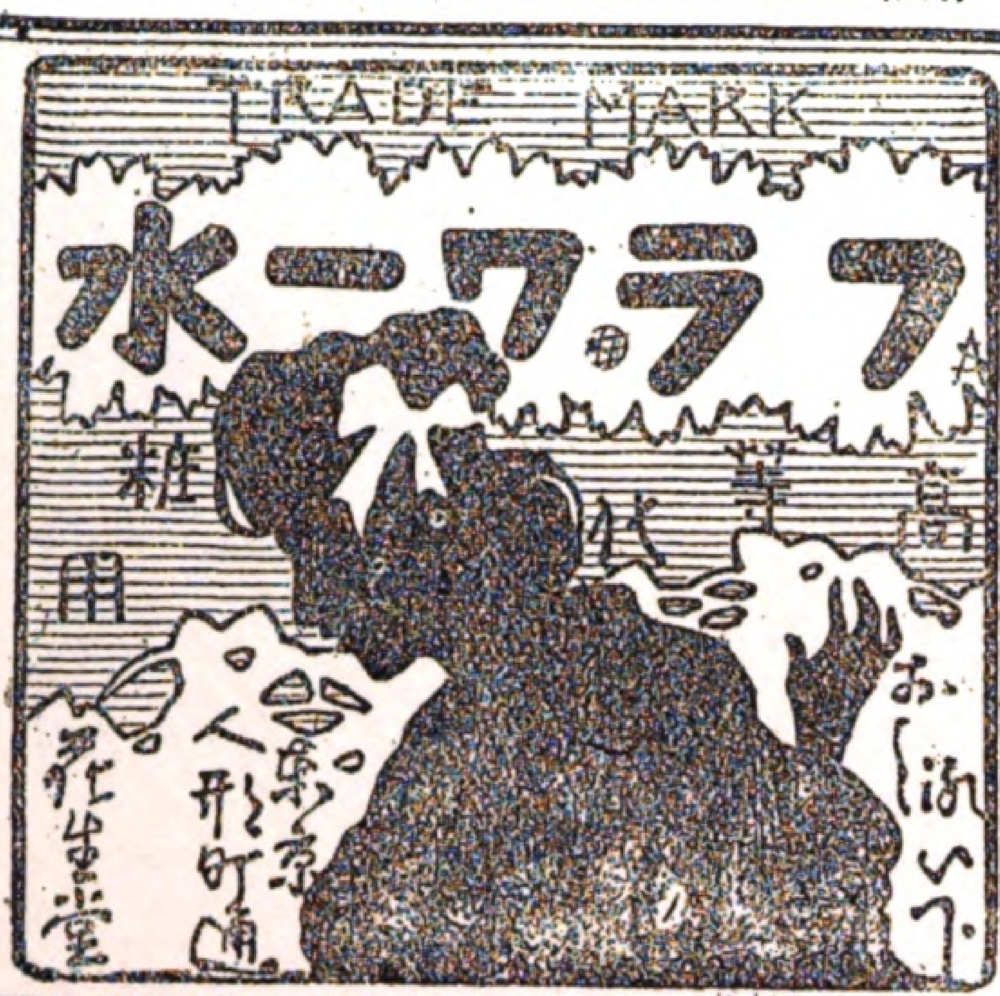
◎食道樂春の巻にて弦齋居士の稱賛を得たる
純粹三宅椿油
化粧用 食料用

◎婦人世界(六月三日)發行婦人日常生活法の欄に於て弦齋先生の説に髪の油は何を用ふべきかと題せられたる中に弊店の油に限るとあります
◎特に中元御進物用美麗箱入調進仕り候
地方は代金引替小包郵便にて御送附申上候
東京日本橋區人形町通松島町
本舗 間宮三宅堂

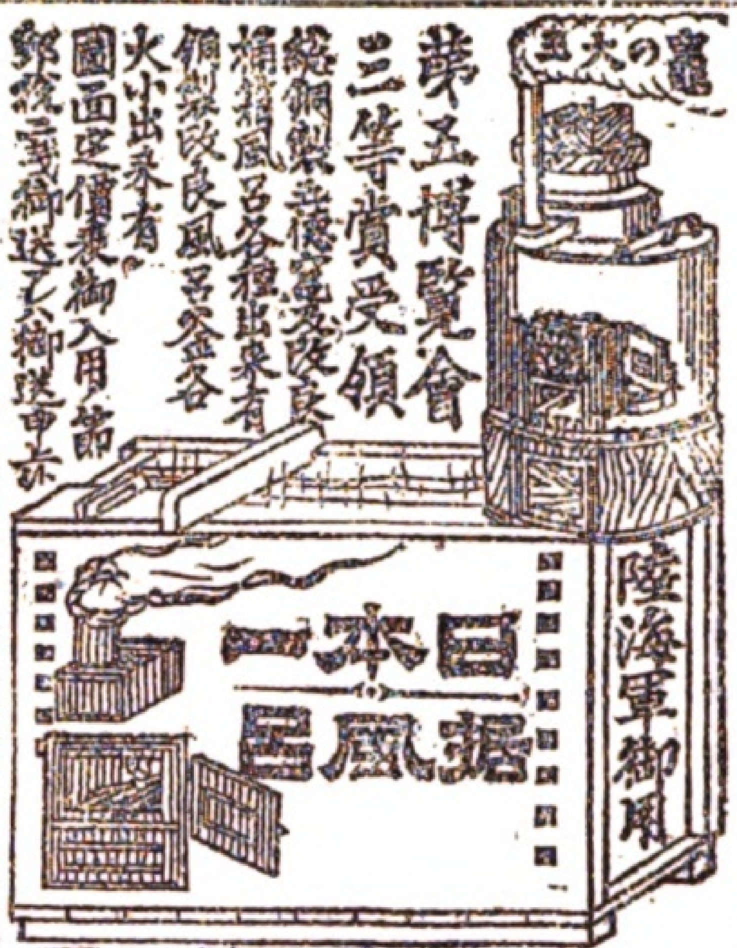
正札附 廉價販賣

意匠斬新
くし、笄、かんざし、
リボン、ヘーアピン、
サイドコム

美術小間物商 三ツ井屋
東京市神田區須田町十番地 電話本局二〇七六番
支店 神田神保町東明館内 新橋ぎわ博品館内



株式會社 第三銀行
東京市日本橋區小舟町三丁目
電話浪花四一二 浪花四五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當坐預金 百圓に付日歩 八厘
別口當坐 同日歩 壹錢
全國送金手数料
其他銀行一般の業務便宜取扱可申候

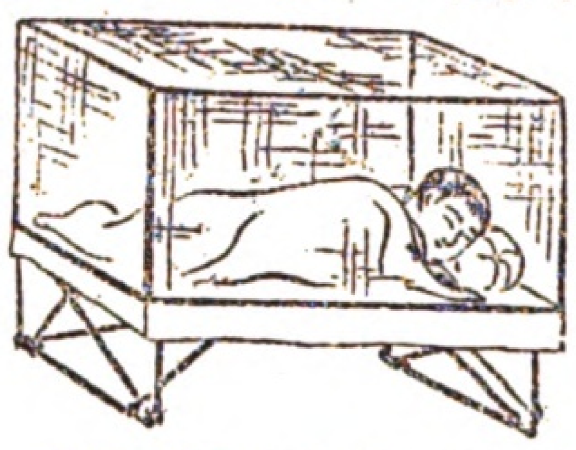


第五博覽會三等賞受領
[illegible]
東京日本橋區通油町十九(電話浪花一四六番)
製造發賣元 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店
代理店 京都柳馬場 春井喜助

婦人滋養の泰斗
紳士卓上の好飲料
中元御進物は美麗箱入
東京日本橋區人形町通蠣殼町
發賣元 三宅島物産株式會社 電話浪花六二〇

中元御進物用品各種
正札附陳列場
中久商店
西洋小間物 帽子各種 婦人用小間物
東髪用具 内外化粧品 玩具文具
東京神田小川町通り 裏神保町一番地

特許やまと寐臺



●大人用蚊帳なし
●小兒用蚊帳附
●取次販賣所は到る所にあり
取りはづし自在
金四圓五拾錢
金貳圓八拾錢
照會郵券三錢送附の事
齋木商店
東京日本橋區室町三丁目

此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば自ら皮膚を滑らかにし其色を白くす

東京牛込 山本玉川堂

帝都唯一受賞袴
小町印 學生袴
卸部 日本橋區彌生町 永井本店 電話浪花一八四一番
小賣部 神田南神保町 永井支店

五日より十五日迄 中元賣出し
めりんす友禅

粗景進呈仕候
中元御進物品新柒物澤山出來 出店新橋博品館階上
神田表神保町壹番地 (電話本局二八五三)

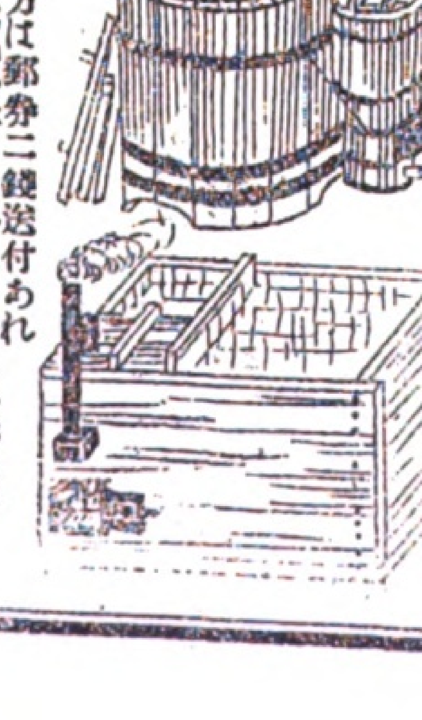
手紙は如何に書くべきか
最新刊
三輪田眞佐子女史序 鵜飼天淵君編著
婦人消息文
◎第一特色……實用的に於て空前無比 便益疑無し
◎第二特色……消息文の書き方△式法△熟語其他種々心得詳説
◎第三特色……現代才媛の消息文約二百通最も新に眞に美觀模範文例也
◎大判全一冊 五拾錢 ◎郵税六錢 ◎但郵券代用は一割增
▲娘に與へたる母の書翰 堀内新泉君著 大好評再版 四拾錢 郵税六錢
▲婦人の重寶 西谷龍顯君編著 (價五拾錢郵税六錢) 家事の重寶、臺所の重寶、育兒の重寶、醫療の重寶、化粧之重寶
東京京橋南紺屋町 實業之日本社 各地賣捌

(本場の特色)
日本第一の大勸業場
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます
東京新橋角
電話新橋(一六五二)(二二六一)

帝國博品館

第五回博覽會賜褒賞特許

同機罐式据風呂
◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髪店用湯風呂◎豆腐箱
◎定價表御入用の方は郵券二錢送付あれ



製造販賣元 日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 名和商店
神田區和泉橋通松永町十八番地 名和支店 電話浪花千百七十七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等香油 チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらくとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髮用としては非常に高評を博しつゝあり

定價入十五錢、四十五錢 廿五錢（送料各十錢）

賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

東京日本橋區本町二丁目 發賣元 高橋初次郎 特電四一三番

女俳優マダム川上貞奴 榊園みやぎ

色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料洗粉

ヤッコ

●定價一鑵廿錢全國送貨四錢三鑵美麗函入五十五錢同送貨十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる與本を添ゆ）

カール

毛を良くしくせと縮毛を直す東髮島田丸まげとも髮形をよくす

●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢

東京神田區御成道田代町九番地 ヤツコカール日本一手發賣元 地球堂 田中丹治

●ヤツコ。カールとも全國有名小間物店賣藥店に賣捌あり若し無くば代價へ送貨を添へ發賣元へ注文すれば急送す

商品案內 無代進呈

○銀側兩蓋之部 流行滿手形

- 價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
- 價十圓半 同懸石卷上向アンクル
- 價十三圓半 同裏三枚懸石卷上向爪
- 價十四圓 米國中蓋付切天武向爪
- 價十七圓半 米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部 流行滿手形

- 價三十三圓 瑞西國大金側御婦人持
- 價六十九圓 瑞西大金側中形紳士持
- 價七十九圓 米國製大金中形紳士持
- 價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
- 價百十五圓 米國製18金形18紳士持

東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

春夏用ショール
フラネルセル地 見本呈ス
旅行用毛布チリヨケ外套車用膝掛種々其他
洋織物、裁縫物ケツト、敷物類何なりと御座候

ツカタヤ 東京湯島切通下 電下谷一三一四

◎海陸運送

一各地行汽車汽船積
一日本郵船株式會社積
一大阪商船株式會社積
一臺灣清韓歐米各國行

貨物運送取扱

一各御轉任等の際は電話又ははがきにて御下命被下候はゞ熟練且確實なる荷造人差向け叮寧迅速に御取扱可仕候

一學生諸君の御榮轉の際は特に御取扱可仕弊社の內規に御座候

日本銀行文書局御用 各公私立學校御用 各種團體御用

㊋三共社（電話本局八九四番）

一市內小荷物集配

副業として市內小荷物集配開始致居候に付御用の節は市內到る處の雜貨店小間物店煙草店等の店頭に「市內小荷物配達三共取次所」の看板あり右へ御出荷被下候はゞ迅速且運賃低廉御便利に御取扱可申候

最上醬油 キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 電信略號（キハク）又（ハク）

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七番

『新公論』は繁劇なる文明社會に最も歡迎せらるゝ英米の『評論之評論』に倣ひ有益にして面白き材料に富み健全なる家庭に必要の雜誌たるを認め候につき吾が『愛國婦人』の愛讀者諸姉に購讀御推薦申上げ候

愛國婦人發行所

新公論

七月一日發行目次

▲厭世煩悶の救濟策▼

- ▲是れ個人問題に非ず國家問題 山根正次
- ▲其原因と其救濟法 幸田露伴
- ▲人間を高く買ひ過ぐる勿れ 加藤弘之
- ▲此流行病を助長する勿れ 高楠順次郎
- ▲三種の治療法 石黑忠悳
- ▲興國の青年男女に告ぐ 根本正
- ▲煩悶と厭世に對する療法十個 佐治實然
- ▲波間の月と空ふく風 下田歌子
- ▲平たく言へば戀愛の二字 棚橋絢子
- ▲學校の敎員よりも家庭の兩親 鳩山春子
- ▲三藥の調合按排 花井卓藏
- ▲敎育と宗敎と新聞 村上專精
- ▲憫む可き煽動敎育の犧牲 平井金三
- ▲體育と活動及び高潔の理想 安部磯雄
- ▲過大の希望を懷かしむる勿れ 寺田勇吉
- ▲注意すべき四箇條 下田次郎
- ▲十分に煩悶せしめよ 山路愛山
- ▲世間一般に知らぬ顔すべし 丘淺次郎
- ▲煩悶は一種の贅澤なり 山縣五十雄
- ▲園藝趣味と宗敎信仰を與へよ 宮川鐵次郎

▲自由安樂の新社會を建てよ 堺利彥

▲海外新潮▼

▲倫敦より 澤柳政太郎

○個人主義と家族主義○亞米利加魂○合衆國輿論の勢力○宗敎の勢力○富豪の子孫○オリンピヤの再興○學術上の新發見と皇帝

▲訪問▼ 興國日本の一弊俗 兒玉源太郎

▲最新思潮▼ 東京の將來 大隈重信

○此外當代名家の卓說三十餘篇を納む

▲人物評論▼ 原敬と川上音次郎 幕村隱士

▲同人雜記▼ ○悶目そば（青柳有美）○小理屈百話（藤岡勝二）○新日本雜觀（熊峯）○東談西語（碧佛）

▲內外諷刺畫 ▲詞藻 ▲新刊紹介

▲一冊郵稅共金十三錢 ▲一年前金郵稅共金一圓四十二錢 ▲每月一回一日

▲大取次 東京堂 東京神田表神保町 同神田區裏神保町 上田屋

發行所 東京市本鄉區東片町百十一番地 新公論社

布施知足譯

簡易生活

全一冊＊定價三十錢＊郵稅四錢

第二の聖書と迄評されし近來稀有の良書

米國大統領ルーズヴエルト氏の愛讀書の一

非常の好評を博し二月初版を發行して早くも四版を重ねたり

煩悶を脫し、幸福を得、樂しき生活を送らんことを欲する士女は一讀せられよ

▲婦女新聞は曰く……譯文は極めて輕快にしてさながら小說を讀む如く何の苦もなく讀み終らしむ……

▲中央公論は曰はく……其記さるゝ所は確かに時弊に適中して人をして反省せしむる所少なからず……

▲家庭之友は曰く……譯文は極く平易に、面白く書いてありますゆゑ、どなたでも讀んで興味を感ずることが出來ませう……

▲萬朝報は曰く……原書は米國に於て第二の聖書と評判されし程にて其の發賣部數極めて多く、且つ他國語にも飜譯せられて歐洲各國にも汎く愛讀さるゝものなりといふ、之を日本文に譯する本書を以つて始めとすべし、當今の驕奢の生活の徒らに複雜にして心神を苦惱せしむる所以なるを說破し、單純なる生活の最も平和安樂なるを宣言して文字は平易なるも理想は極めて高く極めて純なり如何なる家にても一本を供へて朝夕讀み味はゞ必ず大なる益あるべし

▲大阪每日新聞は曰く……近時英米の讀書社會において非常の好評を博し第二の聖書と迄稱せられたる佛人ワグナー氏の「ザ、シンプル、ライフ」の譯本なり、書中說くところの事、皆一々時弊に的中して徒に煩瑣複雜の事業くなり奢侈の風上下を通じて淺尚數迄に亂れ行く現時社會の病弊を救ふに足る適切の文字に富めり、譯文輕妙暢達解し易ければ一讀すべき良書なり

▲丁酉倫理會講演集記者は曰く……本書は米國大統領ルーズヴエルト氏を始め、歐米讀書界に於て持て囃されたる近來の一名著なる事既に世の知る所なり。原著は The Simple Life, by Charles Wagner といふ。其大體の主意は現今の複雜、纖巧、虛僞の世の中を去りて、單純、素朴、眞實に復れ、其處に始めて人生の眞味を味ひ得べしと、說けるにあり。曩日手島精一氏の米國より歸朝するや、記者問ふに彼の地如何なる好書ありやを以てせり。因りて當時氏亦た此の書を其の一に擧げられたり。而して一たび借覽して、記者亦其文明の弊に鑑みて、安價に高尙に一生を送るの方法を說くに於て、頗る適切の敎なるを知れり。

譯書の製本は其敎と伴ふて、簡易素朴なり。ツマラヌ物にも裝釘に意匠を凝らす當時の風潮に反して、一見見すぼらしと雖も、行文流暢毫も拮据の所なくすらすらとして分りよく、小說を讀むの味あり、譯し得て好しといふべし。吾人は一般學生、及び家庭の讀み物として、又た金屋裏にありて不潔、憂悶、厭倦に苦む者の解毒藥として之を推薦する者なり。

發行所 東京市神田區表神保町十番地 東西社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大高評空前無比の急激なる增加！

婦人世界

七月三日刊　第七號　一冊拾五錢　郵税壹錢　五厘　六冊八拾錢　郵税九錢　十二冊共壹圓五拾錢

口繪　有栖川宮妃殿下◎名家の新婚夫婦撮影◎外人の日本書外三▲彩色石版畫二枚▲彩色繪手本二枚

婦人の日常生活法　村井弦齋

廿年間研究に成る實用大文字◎

▲心の食物は何が宜きか▲讀書は何を擇ぶべきか▲裁縫は如何にすべきか▲家庭で何を縫ふべきか▲股引は如何に用ふべきか▲洗濯は如何にすべきか▲買物は如何にすべきか▲貨幣は如何に取扱ふべきか

▲晝飯は如何に用意すべきか▲辨當は如何に拵ふべきか▲入浴は何時が宜きか▲入浴の順序は如何にするか▲風呂の水は何が宜きか▲浴後は如何にすべきか▲爪は如何に剪るべきか▲爪は如何に檢査すべきか

△弦齋夫人料理談：玉子▲胡瓜▲茄子▲豆腐は如何に料理すべきか

△學生時代の追懷（鳩山春子）△暑中休暇は如何に利用すべきか△小兒夏期の衛生（加藤照麿）△婦人の衛生△小説等

毎號再版又三版忽ち賣れ切るゝを見て眞價を知られよ

◎見本郵税共拾六錢五厘　第壹號より全部取揃注文に應ず（三號四號五號再販六號三版成る）

東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　郵便振替貯金口座參六番　賣捌全國各地書店

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に發する香の香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体は元より手拭タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は馥郁としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す○（定價大形廿錢小形拾錢）〔熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり〕

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地　麝香石鹸　井上太兵衛

最上醬油元祖

上サ（商標）

醸造元　下総銚子町　濱口儀兵衛

荷扱所　東京北新堀七番地（電話浪花二二五九四）　濱口支店

○宮内省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の醸造高也

大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇〇五）　濱口出張店

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

良藥にして口に甘し

定價金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　錢拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

中元御進物用

●ハンカチーフ（絹 綿 麻 各種 箱入）
●クレープシヤツ
●婦人小兒用帽子
●上衣キヤンバース
●洋傘手袋沓下類
●敷布用タヲル切地
●精巧舶來人形各種
●洋花リボンレース
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目　伊勢與　三枝小賣店　電話新橋三九二七番

カメリヤ洗粉

カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

定價　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

發賣元　小林富次郎

七月一日より

中元賣出し仕候

一　御贈答に恰好の品々陳列
一　浴衣仕着衣に相當の品々陳列
一　とせきれ（？）尺切反物澤山陳列
一　呉服切手は横濱鶴屋呉服店と共通にて御進物用には大に便利に御座候

神田今川橋　松屋呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人藥 中将湯 藥王

子宮病 血の道
さん前產後
のぼせ頭痛
腰足冷込
下腹痛み
月經不順
白血赤血
其他婦人病
一切の特効藥

定價 三日分二十錢 一週分四十五錢 三週分八十錢 五週分壹圓廿錢

東京日本橋區通四丁目
本舖 津村順天堂
支店 大阪堺筋大寶寺町南へ入

各國帝室及ヒ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讚辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。
最モ盛ニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

めをはぐし ハミがキ

● 色白く艶をだす
松澤 ボーサン石鹸 （大形一個廿錢 小形一個十錢）
● 近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
● 當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉

登錄商標

都足袋粹乃友

東京市日本橋區室町三丁目
龜屋足袋店
宮内清兵衛
電話本局一七一二番
電信略號（カメヤ）又（カ）

本居東宮侍講題詠
下田學習女子部長題歌
小杉文學博士序文
國文學專攻 小森松風君 編著

獨習良師 女子文學全書

全部目次（一編 美文作法 二編 和歌作法 三編 新體詩作法 四編 俳句作法 五編 女子消息文範 六編 女子普通文範 七編 言文一致文範 八編 普通國文典 九編 女子口語文典 十編 女子修辭法 十一編 女子文學者列傳 十二編 女子國文學史）

◉第一編 美文作法（製本發賣）

本書は女子師範、高等女學校其他各種の女學校にて最も困難を感ずる文章の作法を懇切に説明指導せられたる良書なり

全部拾貳卷 洋裝 紙數二千七百頁餘 振假名付 每卷讀切 壹冊菊判二百卅頁 全部一ヶ年に完結

正價 壹冊金參拾錢 郵稅一冊四錢 全部一時拂込 前金參圓 郵稅不要（全部拂込は大割安也）

▲發兌元 東京京橋大鋸町 女子文壇社 ○特約賣捌所 東京堂、北隆館、前川文榮閣、東海堂、上田屋、良明堂、外女子文壇取次書店

夏季向呉服太物類一切

店内漏れなく陳列致置申候間多少に拘はらず御用命被下度奉願上候。尚目下大流行の
中形浴衣地 は柄合の嶄新なるものを撰び
小間物化粧品類 は最新流行の品々極めて格安に販賣致し居候。尚地方御得意様の御注文は、可成鄭寧親切に御取計可申上候。
地方御注文案内書 は御一報次第早速御送付可申上候。

東京日本橋區駿河町
三越呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番　四一一番　（特）三七番　一〇二番）

一定期預金　年五分
一當座預金　日歩七厘
一特別當座預金　日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日歩　八厘
特別當座預金　同日歩　壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋（三〇〇番　一五三〇番　三一九三番）

同日本橋區新乗物町
同 日本橋支店
電話浪花（一九〇一番　三二七四番　三五〇八番）

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

スコット乳菓
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ著大ノ効驗アリ早ク試賜ヘ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八號
スコット乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎

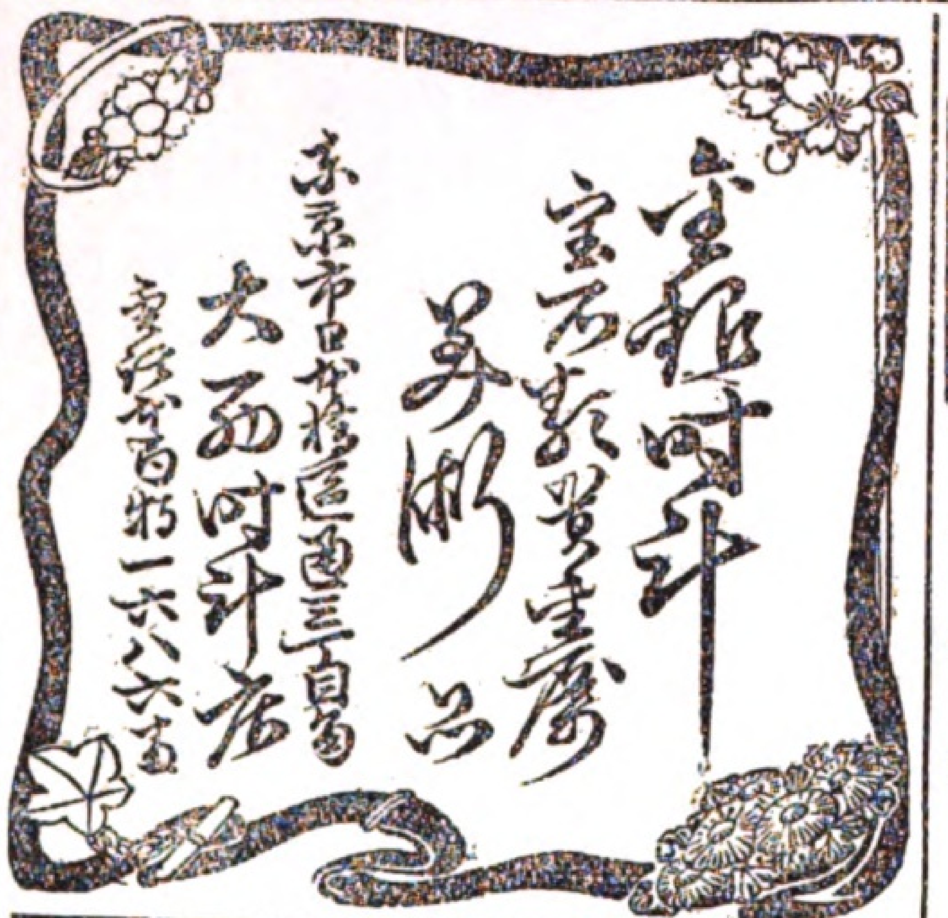
◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候

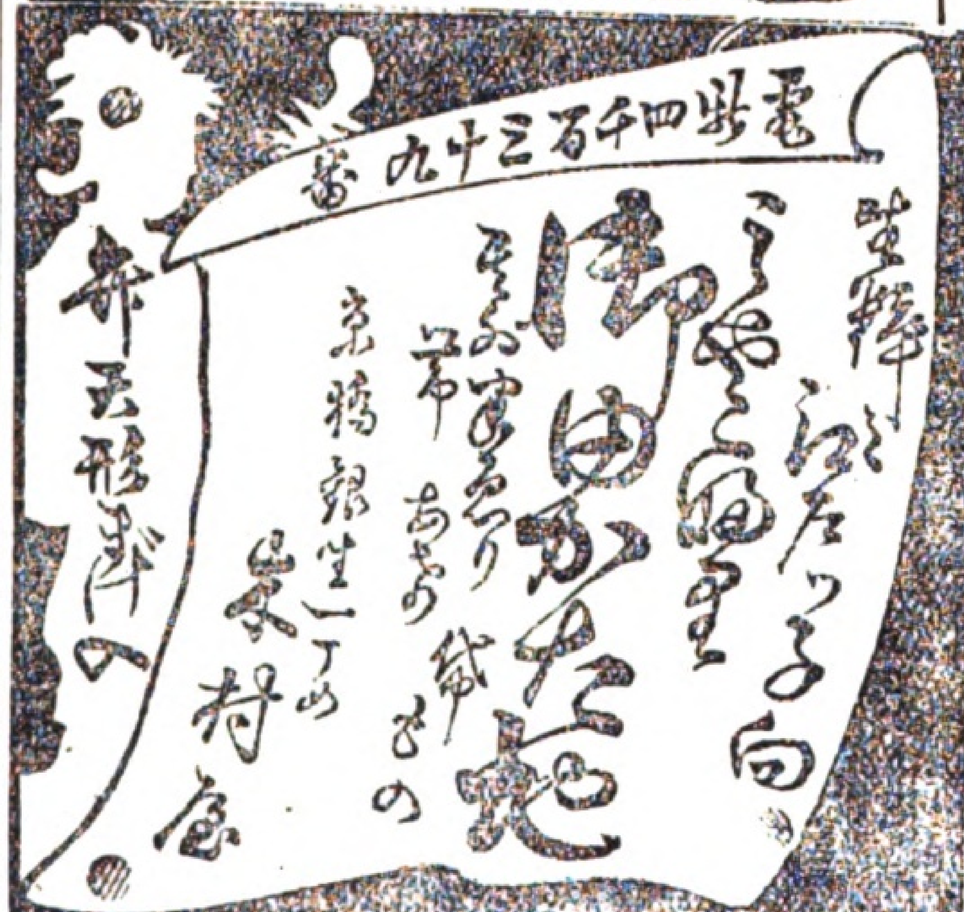
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本郷區駒込東片町五番地　電話下谷二二七一　西川支店
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　西川洋食店
小石川表町十八番地　米穀商　西川嘉門

袴乃親王

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店　電話浪花二八五九番

小賣部
本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店　電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
神田區小川町　美濃磯神田支店
深川高ばし際　美濃磯支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店





一日より二週間十四日まで 中元大賣出し
花鳥草水　夏半ゑり　帯揚類

○組合せ夏ゑり大見切　○福箱大景品進呈
○別染好浴衣地　縞縮明石縮烏帽子縮
○染模樣縫片側帯
○同丸帯單帯兵兒帯
○裾模樣け出し地
○長襦袢地襦伴細
○伊達巻ショール
○ネキタイ下締め

本店　新橋竹川町十二　電話新橋二〇二七　ゑり治
支店　神田表神保町壹　電話本局九五二番　ゑり治
新橋際博品館内　ゑり治出店

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎
婦人科產科 榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

內科小兒科 特に吸呼器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

產科婦人科
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

產科婦人科專門
ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科　診察從前の通
芝愛宕町
新二六〇
同二六二〇
東京病院

◎婦人科
◎小兒科專門
午前宅診　午前往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

東京神田錦町參丁目　電本七一五
山口眼科病院
院長 醫學士 山口秀高
診察午前午後　入院隨時

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般
午前宅診　午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

院長 醫學士 烏山南壽次郎
烏山內科院
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

夏期診察
專門 男女尿道膀胱生殖器病科
時間 午前八時乃至十二時　午後四時乃至八時
本郷湯島新花稻荷祠前
下平尿科醫院
電話下谷二三四二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年七月五日發行(每月五日二十日二回)

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは(拾貳弖)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳弖入　金拾五錢　六弖入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉　ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上　金七拾五錢　金貳拾錢　普通　五拾錢　六錢　參拾錢　三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

陸軍省御用

木杯銀杯
定價表
ご入用の節は
御送附可仕候

漆器蒔繪商　林九兵衛
東京市日本橋區室町貳丁目　木屋本店
電話本局　特九九七一七一〇

新小說

第拾壹年第七卷◉七月一日發行

老骨……德田秋聲
葛の下風……佐藤露英
零れ松葉……泉斜汀
御本盆踊都風流……高安月郊
夏季の休暇……畔柳芥舟
と自然文學……
ヘンリツク、イブセン……かくれん坊
穴居の民(承前)……上田敏
かな自在……泉鏡花
婦人の帽子……故久保田米僊
歐米見物途中記……松居松葉
松屋耳鳥齋……林田春潮
獨逸現代の音樂家……島村抱月
青年と俗世間……後藤宙外
夏季衞生上の注意……石原醫學士
此邊の家庭……大塚楠緒子
夏の化粧……野村逸民
「しぶい」と「からい」……須藤南翠
「イキ」な私……大槻如電
本郷座のやどり木……山岸荷葉
◉表紙繪河村清雄◉口繪渡部審也右田年英◉繪葉書鰭崎英朋

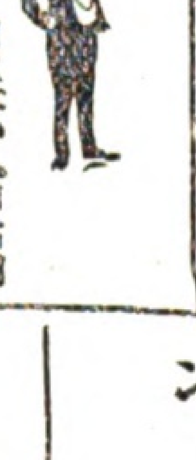
實價　一冊廿五錢郵稅貳錢五厘　六冊前金郵稅共一圓五拾錢　九錢郵券代用必ず一割增

東京　春陽堂　日本橋

日本家庭辭書

文學博士井上哲次郎先生
文學博士井上圓了先生
文學博士元良勇次郎先生
學習院女學部長下田歌子先生
序

家庭必備の寶典



西山悊治編

四六判形總クロース頗ル美本全一冊
舶來上等紙摺紙數凡八百餘頁
定價金壹圓三十錢
內地小包料十五錢
口繪中村不折畵伯の三色版挿入

▲▲製本出來本月中旬▲申込期限本月二十日

本月二十日迄の御注文に限特價九十錢(小包料十五錢)(期限後は斷然普通實價に復す)內容見本入用の方は御一報次第送る

家庭問題は今に殘されたる社會問題として又戰捷後必然に社會の要求する時代的需の聲に應ぜんとて世に出づる家庭向の著書敢て尠きにあらずと雖も惜むべし一時的際物の零片を以て充たさる即ち編者此に周到の用意多大の苦心抱負を以て本書を編纂せられたれば家庭は此れに依て光明に浴し新しき福音に接するもの尠からざるを信ず幸に世の流行的一夜作の駄編と同一視する勿れ本書の內容は

家庭組織	道德	家敎	經濟	裁縫	園藝	茶道
結婚制度	交際	衞生	行事	洗濯	養蠶	音樂
法律	禮式	家具	料理	汚點拔	生花	遊戲

女子の修養

學習院女學部長下田歌子先生著(好評嘖々)

等に就て最も家庭に必要なる千餘項を選擇し五十音順に配列し說明家庭に關して細大漏さず懇切荷くも事家庭に關し忠實なるを以て家庭の顧問たるを期せり即ち本書を家庭に獻じ進物殊に結婚出產の贈物として薦め又敎育に熱心なる各學校敎育家及び學生諸君の備品として推す、幸に此の好書を逸せず購讀の榮を賜はらんことを

菊判形總クロース彩色意匠數度ノ色箔頗ル美本全一冊
正價金七十錢
郵稅金八錢

◉廿世紀女子教育の生粹◉新家庭經營整理の實鑑
女子高等師範學校內フレーベル會編
婦人と小供　每月一回五日發行一冊十錢六冊郵稅共六十錢十二冊前金一圓二十錢

發行所　東京京橋區南大工町一番地　弘道館(電話本局二八四〇番)

斬新材料
舶來薄絹シホン
ホワイト
リープス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候

各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

東京市日本橋區橫山町一丁目十六番地
天野卯兵衛　電話(長)浪花一六四三番

補血良劑

ワスポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飮用に適する香氣を有するを以て婦女子も尙喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
(電話本局三〇一八 電話本局特四九一)

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價　純銀製　一個　金三十五錢以上　(餘は御好み次第迅速調製可仕候)

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達　玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷　特九六五番　一二四四番

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸堂
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜社
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衞門町　同區南鍋町　京華社支店　廣告社

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　東京麴町　愛國婦人發行所
印刷所　秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

破格の謁見を賜はりたる「肉彈」の著者歩兵中尉櫻井忠温氏が其恩人近藤竹三郎氏に救はれて旅順望臺の重圍を躍越るの圖（本紙第六頁參照）同中尉左筆畫（特に「愛國婦人」の爲め）

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 千島鎰雄 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN